



御神忌 千百二十五年  
半萬燈祭  
未来へつなぐ誠の心

令和9年 | 2027

謹賀新年

# 天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

- ◆ 天正の『北野大茶湯』の縁を伝える  
献茶祭、厳かに斎行 表千家不審菴家元猶有斎千宗左宗匠ご奉仕
- ◆ 勅祭北野祭の伝統を継承する  
例祭・北野御霊会、延暦寺と共に厳かに斎行 — 叡南大阿闍梨が立印加持も
- ◆ 天神さまと私  
歌舞伎俳優（人間国宝） 片岡仁左衛門 丈



日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

## 北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道太祖風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



### 【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居北野で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

### 表紙写真 — 梅花咲き誇る勅額御門 —

慶長十二（1607）年、豊臣秀頼公により造営された御門。後西天皇御宸筆「天満宮」の勅額を掲げ「勅額御門」と称される。

桃山文化の華やかな彫刻の中に日・月を刻み、星を北極星とすることから別名「星欠けの三光門」とも呼ばれる。





## 謹賀新年



千年大萬燈祭（明治35年）楼門前

年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、国家の隆昌と氏子崇敬者皆様方の健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

天正の北野大茶湯を偲ぶ御茶壺奉献行列並びに奉告祭、口切式、献茶祭までの一連の神事をご斎行申し上げました。表千家不審菴のお当番、家元千宗左宗匠のご奉仕のもと、古式に則り厳かに斎行された献茶祭は、表千家ご社中の各茶席、上七軒歌舞会の副席、菓匠会の協賛席ともに多くの数奇者で賑わいました。ご奉仕いただきました関係各位に、改めて厚く御礼を申し上げる次第でございます。

さて、菅公薨去より千二百二十五年の式年大祭「半萬燈祭」が来年に迫る中、顧みればここ二十年、半萬燈祭に向けて御社殿の修繕はもとより、境内の諸整備を進め、且つ天神信仰の更なる宣揚を熟慮して参りました。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」の示す教訓、つまり当宮の歴史を繙き、途絶えてしまった神事や旧儀の再興に至りました。史跡御土居のみみじ苑や雪月花の三庭苑、北野御手洗神事や曲水の宴など、北野の天神信仰と伝統を具現化し、その代表的なものが応仁の乱で途絶えたかつての勅祭「北野祭」の再興でありました。

北野祭は永延元年（九八七）、一條天皇が北野社に勅使を遣わされ祭典を斎行したことが起源です。室町期には京都を代表する祭りとして隆盛を極めました。応仁の乱で本来の姿を失います。北野祭の重要祭儀であった北野御霊会は、比叡山延暦寺と共に五百五十年ぶりに再興。コロナ禍の中、宮司が祝詞を、天台座主が祭文を奏上し、その収束を御祭神に祈願したことは終生忘れることはない記憶として心に刻まれています。以来、御本殿に祝詞と読経の音が響く神仏習合の北野御霊会は、毎秋九月四日にかつての北野祭を継承する例祭として斎行しています。北野祭の神興は、天皇の興を奉じた禁裏駕輿（きんりかご）と呼ばれる者たちが当宮のみ担ぐことを許された由緒あるもので、北野祭祭礼図絵巻などをもとに復原に取り組んでいます。

明年三月の半萬燈祭に先立ち、記念する特別展「北野天神」も、本年四月十八日から京都国立博物館で開幕致します。国宝「北野天神縁起絵巻（承久本）」の全巻全場面の公開は初めてであり、天神信仰を拡大する絶好の機会になると確信しています。

宮司に就任して今年で二十年、「物事の本質を踏み外さず、誠を極めよ」の言葉を胸に、今一度、菅公が示された「和魂漢才」と「誠の心」の精神を実践し、曇りなき眼で混沌とした今の時代に対峙し、「真の天神信仰」を未来に繋げるため、物事の本質を発信し続ける神社であるよう努めて参る所存でございます。

御神縁深き皆様には、本年も倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

令和八年丙午元旦



北野天満宮

宮司 橘 重十九



# 天正の『北野大茶湯』の縁を伝える

## 献茶祭、厳かに斎行 表千家不審菴家元猶有斎千宗左宗匠ご奉仕

天正十五年（一五八七）、豊臣秀吉公が当宮境内北野松原で開いた「北野大茶湯」を由縁とする献茶祭を十二月一日午前十時半から多くの茶道関係者参列の下、御本殿で厳かに斎行した。師走入りとは思えないほどの好天に恵まれ、境内各所に設けられた茶席は、一服を楽しみむ茶人で賑わった。

御神前での献茶ノ儀のご奉仕は、在洛の四家元・二宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が輪番で務められるのが習わしとなっており、今年は表千家不審菴家元がお当番。猶有斎千宗左宗匠が御祭神と豊太閤を祀る豊国神社の御祭神に献ずる濃茶・薄茶を二碗ずつ点てられた。

御神前に濃茶・薄茶が供えられた後、宮司が祝詞を奏上した。千宗左宗匠、献茶祭保存会を代表して鈴鹿且久氏、職家代表の大西清右衛門氏が玉串拝礼され、御本殿での祭典を終えた。西廻廊には二台のモニターが設置され、御本殿での祭典の様相を映し出しており、御本殿に入り切れなかった多くの茶人女性らが見入っていた。

御本殿の祭典の後、千宗左家元や祭員は、豊国神社に移動し、ここでも献茶祭を斎行した。

この日、文道会館に拝服席（不審菴）が設けられたほか、副席が風月殿奥ノ間（即審会）、明月舎（両笑会）、西方寺（水月会）、松向軒（松向軒保存会）、上七軒歌舞練場（上七軒お茶屋組合、上七軒芸妓組合）に置かれ、北門には献茶祭保存会によるそば席も設けられた。

### 絵馬所では飾り菓子の展示会 菓匠会が珠玉の一品を披露

献茶祭に協賛し、今年も京都の老舗和菓子店で構成する「菓匠会」が、この日、絵馬所で飾り菓子の展示会を開いた。

「菓匠会」は、江戸時代の禁裏御用達「上菓子仲間」の流れをくむ京都の老舗和菓子店で組織されており、毎年菓題を決め、各店がそれに沿った一品を創り、お茶とともに発展を遂げてきた京都の和菓子の素晴らしさを披露している。

今年の菓題は「暮れる」。各店が「たそがれ」「冬宵」「夜咄」「平穏」などの題をつけた菓子を展示した。献茶祭に臨んだ茶人や参拝者が次々と入場し、珠玉の一品に見入り、スマホを取り出し写真撮影する人も相次いだ。



献茶ノ儀（表千家不審菴 家元 千宗左宗匠）



豊国神社献茶祭



玉串拝礼





協賛席 絵馬所（菓匠会）



参列される猷茶祭保存会役員以下関係者（渡辺孝史氏・鈴鹿且久氏・山本源兵衛氏・橋本健太郎氏）



副席 上七軒歌舞練場（上七軒お茶屋組合・上七軒芸妓組合）



副席 風月殿奥の間（即審会）



拝服席 文道会館ホール（表千家不審菴）



副席 西方寺（水月会）



副席 松向軒保存会（松向軒）



副席 明月舎（両笑会）

亀	嘯	二	亀	末	亀	笹	塩	千	本	亀	亀	長	亀	先	鍵	鶴
屋		條	屋			屋		本	家	屋	末	久	屋	斗	善	屋
良		若	清	廣	伊		芳	玉	玉	良			陸	駿	良	吉
永	月	屋	永	富	保	織	軒	軒	軒	長	廣	堂	奥	河	房	信

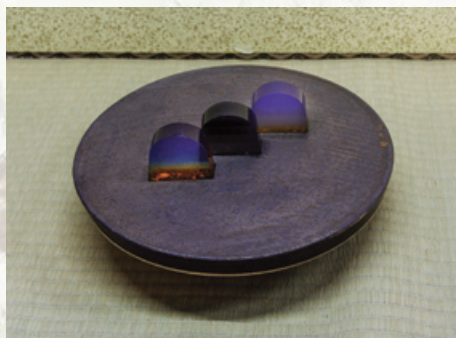
《菓匠会一覽》



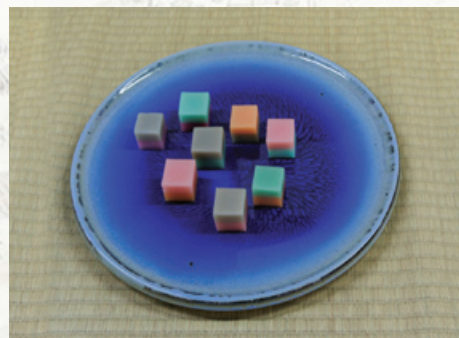
そば席 北門



塩芳軒「光陰」



亀屋良長「巡る」



鍵善良房「寒暮」



# 献茶祭に先立つ神事



献茶祭保存会役員による口切式（鈴鹿且久氏・山本源兵衛氏・橋本健太郎氏）

厳かにお茶壺奉献告祭・口切式齋行  
茶摘み娘先頭の御茶壺行列も華やかに



碾茶の見知（献茶祭保存会宰領渡辺孝史氏）

姉さんかぶりの茶摘み娘を先頭にした華やかなお茶壺行列によって、一の鳥居前から御本殿に運ばれた。御本殿に運ばれたお茶壺は御神前に供えられ、関係者多数が参列する中、宮司が祝詞を奏上して奉献告祭を齋行した。続いて口切式に移り、居並ぶ献茶祭保存会役員の鈴鹿且久氏、山本源兵衛氏、橋本健太郎氏らのもとに、神職によって御神前に供えられていた茶壺が「木幡でございます」「宇治でございます」と、一壺ずつ運ばれた。役員らは茶壺の口を一壺ずつ丁寧に取り、茶舟の上に青々とした碾茶を盛り上げた。茶舟の碾茶は、献茶祭保存会の宰領を務める渡辺孝史氏によって見知され、前拝殿に茶壺とともに供えられ、神事を滞りなく終えた。御神前に献上された碾茶は、抹茶にして献茶祭に使用された。

献茶祭に先立って、使用される抹茶の原料・碾茶を奉献する、お茶壺奉献告祭並びに口切式を十一月二十六日午前十一時から御本殿で厳かに齋行した。

碾茶の奉献は、慣例により山城六郷（木幡・宇治・菟道・伏見・桃山・小倉・八幡・京都・山城）の茶の生産者と京都市茶業組合を始めとする茶業関係者によって十二月一日の献茶祭前に執り行われている伝統の神事。



京都の各茶産地より献上された碾茶



古式ゆかしく御茶壺行列



大阪・関西万博記念事業  
きょうとまるごとお茶の博覧会  
「北野大茶会」開催



巫女による担い茶屋茶会

## 茶道四家元二宗匠による茶会、 煎茶道各流派の茶会なども開催

「きょうとまるごとお茶の博覧会」（実行委員会・京都府ほか）は、半年にわたって京都府内で開いてきた数々のお茶文化発信の催しの締め括りとして、当宮で天正十五年（一五八七）に豊臣秀吉公が催した空前絶後の大茶会「北野大茶湯」を称え、その舞台である北野の地で十月十一日から十三日まで「北野大茶会」を開催した。毎年十二月一日の当宮献茶祭において六年毎に輪番で献茶祭をご奉仕される在洛の四家元二宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が、境内の茶室で茶会を開かれたほか、神楽殿では煎茶道各流派による茶会、表参道横の右近馬場では野点茶会、文道会館内では府内の中学校・高校で半年間にわたって開催された国際茶会の模様をまとめたパネル展示、さらに梅苑内では、京都市立芸術大学と京都府立大学の学生らが協力し、茶室を造り自らお茶を振る舞う創作茶会を開催、また茶文化ゆかりの団体による販売・体験ブースなど、境内一円がお茶ゆかりの文化で染まった。

「きょうとまるごとお茶の博覧会」は、大阪・関西万博に合わせ京都を訪れる世界の人たちに茶文化を広く知ってもらおうと、府内各地で茶会を始め茶にまつわる様々な催しを行ってきた。その機運を盛り上げようと昨年十一月には当宮紅梅殿においてプレオープニングセレモニーを行い、今回の本行事に繋がった。

「北野大茶会」は、「きょうとまるごとお茶の博覧会」を締めくくる催しで、初日の十月十一日、紅梅殿に西脇隆俊京都府知事や文化庁の伊藤学司次長らが列席して式典を開催。西脇知事は主催者を代表して「今日から三日間、あの歴史に名高い北野大茶湯が開か

## 日本の文化が集結、伝統と革新を境内一円で発信



京都市茶業組合・京都市茶業青年会による  
北野大闘茶会（絵馬所）



宝物殿では北野大茶湯にまつわる品々が展示された





藪内家



表千家

れたここ北野天満宮でのグランドフィナーレです。境内一円で茶会や野点を始め茶に纏わる多彩な催しが行われる。茶文化に接して頂き、心が豊かになり、安らぎのひとつになる貴重な機会をぜひ体験頂きたい」と挨拶。また来賓を代表して伊藤次長も「教科書で見た大茶湯の舞台に立ちワクワクしている。文化庁が京都に来て二年半、海外にも日本文化の魅力を発信しているが、お茶に対する海外の評判は日々上がっている。表面的に終わるのではなく、その神髄を理解してもらうよう頑張りたい」と挨拶。宮司も御祭神である菅公のご業績を紹介し、菅公が文化芸能の神であるとし「混沌とした現在の世界情勢の中、誠の心を示された菅公精神が大切であり、お茶を通じて日本文化の素晴らしさをこの北野で感じて頂きたい」と述べた。

## 境内一円に遺る北野大茶湯の遺構 若い世代の新たな文化発信

「北野大茶湯」の一番の目玉は、茶道四家元二宗匠と煎茶道各流派による茶会。四家元二宗匠による同日のお茶会は北野ならではの趣向で、会場は風月殿・明月舎・松向軒のそれぞれを使って催され、いずれも順番待ちの人で長い行列が出来、茶席に座った人たちが静かに一服を楽しんだ。一方、煎茶道も静風流、方円流、二條流が日替わりで神楽殿にて茶会を開いたが、こちらも大盛況であった。

表参道横の右近馬場では、各種茶道倶楽部による野点茶会が連日開かれ、参拝者が気軽に一服を楽しみ、お茶や茶道具、茶器、和菓子などの販売コーナーも盛況だった。また今回は特別に当宮の巫女がお点前を奉仕し、神職が解説する「担い茶屋茶会」を当宮主催で開催。北野祭渡御でしかお目見えしない「担い茶屋」を実際に使用し、厳かにお茶を点てる巫女の姿に、多くの数寄者が足を止め、一服に興じた。

当宮には馬場の一角に秀吉公が「北野大茶湯」で使ったと伝わる「太閤井戸」、一の鳥居横の松向軒には細川三斎公が使用した「三斎



久田家



裏千家





堀内家



武者小路千家

井戸」、そして上七軒西方寺には「利休井戸」がそれぞれ保存され、境内一円は現在も天正の大茶湯ゆかりの遺構が遺されている。現在でも毎月一日と十五日には明月舎、松向軒の二茶室にて月釜が催されるなど、茶文化と伝統が受け継がれている。

文道会館では、府内の小中高・支援学校生が実施した「お茶でつながる国際交流く国際茶会く」の成果発表として、お茶で交流する子どもたちの写真を展示、また宝物殿では北野大茶の湯の高札を始め浮田一蕙筆の『北野大茶湯図』などが展示され、過去と現在そして未来に向けての文化発信も積極的に展開された。

催しはお茶だけにとどまらず、紅梅殿では、華道家元池坊の池坊専宗氏によるいけばな披露（十一日）、上七軒歌舞会の芸舞妓による舞踊披露（十二日）、華道末生流笹岡家元笹岡隆甫氏によるいけばな披露（十三日）と、日本の伝統芸能と文化の催しが連日披露された。

## 絵馬所で第十五回「北野大闘茶会」開く 宇治の男性、満点で天満宮賞に輝く

第十五回「北野大闘茶会」（京都市茶業組合など主催）が十月十二日、境内で開かれた「きょうとまるごとお茶博覧会」にあわせ絵馬所で行われ、約五十人が「優雅な茶遊び」に挑んだ。

闘茶は茶の栽培法とともに中国から伝わり、南北朝期から室町初期にかけて、公家や武家社会で隆盛した所謂お茶の飲み比べ。優雅さから「茶歌舞伎」の異名ももつ。お茶との縁が深い当宮では毎年この時期に「北野大闘茶会」として開いているが、今回は先のお茶博覧会に合わせ、その催しの一つとして開催された。

参加者は、まず「花」「鳥」「風」「月」「客」という五種類に分類した玉露や煎茶などの香りをかぎ、試し飲みをした。この後、各茶の名前を秘したまま、順序ばらばらで出て来るお茶の名前当てに挑んだ。これを三回繰り返し、十五点満点だった宇治市の男性に北野天満宮賞が贈られた。



方円流



静風流



二條流



梅交軒



音楽に包まれながら茶を味わった



楽と茶の融合する声涼絡緯〜北野三吟



笹岡隆甫氏によるいけばなの実演



池坊専宗氏によるいけばなの実演



いけばな体験教室も開かれた



上七軒歌舞会による日本舞踊

学生



府内の学生によりお茶を通した  
海外との交流が紹介された（文道会館）



学生が生み出した  
斬新なデザインの茶席「凹庵」



学生によって作成された  
解放的な空間が特徴の「凸庵」





勅祭北野祭の伝統を継承する

# 例祭・北野御霊会、延暦寺と共に厳かに斎行 叡南大阿闍梨が立印加持も



勅祭「北野祭」を受け継ぐ例祭

令和の北野祭の中核をなす例祭・北野御霊会が、九月四日午前十時から御本殿で、当宮神職と天台宗総本山比叡山延暦寺の一山僧侶によって斎行され、祝詞と読経により国家安寧を祈り上げた。北野御霊会を復興し、例祭に合わせて斎行されるようになって六年目となる今年は、千日回峰行を満行した叡南浩元北嶺大行満大阿闍梨による「立印加持」が初めて勤修され、神仏習合の更なる高まりを感じさせる御霊会となった。

例祭は永延元年（九八七）、一條天皇から「北野天満大自在天神」「北野天満宮天神」の御神号を賜って官幣社となり、勅祭として斎行された北野祭の伝統を引き継ぐ当宮で最も重要な祭典。北野御霊会は、勅祭北野祭の中でも最重要神事であり、延暦寺の僧侶によって菅公慰霊の法要が長年営まれてきたが、応仁の乱によって途絶えてしまった。令和二年、天台宗の開祖・伝教大師千二百年大遠忌を期し、猛威をふるっていた感染症の収束を祈ろうと、当宮例祭斎行に合わせ約五百五十年ぶりに再興されたもので、今年で六年目となる。

三光門前に列立した当宮神職と延暦寺僧侶が静々と御本殿に参進。崇敬者らで埋まった殿内で、まず宮司が祝詞を奏上し、皇室の弥栄・国家国民の安寧・世界の平和を祈った。引き続き延暦寺の僧侶による北野御霊会となり、法華三昧が勤修され読経の声が響き渡った。「南無天満大自在天神」「南無根本伝教大師福聚金剛」と、御祭神と伝教大師の法号が三度ずつ唱えられた。

この後、叡南浩元北嶺大行満大阿闍梨が登壇し、立印加持を勤修し、世界平和や崇敬者の無病息災を祈り上げた。叡南大阿闍梨は、平成二十九年に千日回峰行満行された人で、当宮御神前での立印加持は初めて。

続いて当宮巫女が巫女舞「紅わらべ」を奉奏し、御本殿内はまさに神仏習合の極みに達したような雰囲気包まれた。



立印加持



参進





登天天満宮例祭



延暦寺一山出仕奉仕による「北野御霊会」

根本中堂のすぐそばにいつの頃からか不明だが奉祀されたが、老朽化甚だしく、当宮が令和九年に迎える菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭の記念として改修した。

この日は、延暦寺の獅子王圓明執行が御参列され、祝詞奏上の後、二人の巫女が巫女舞「紅わらべ」を奉奏した。その後は、獅子王執行が玉串を奉り拝み、厳かな空気の中、祭典を終え、当宮と延暦寺の御神縁をより一層深く結んだ。

天台宗総本山比叡山延暦寺（大津市）の境内にある菅公ゆかりの登天天満宮が建て替えられ、昨年十月九日に木の香りも芳しい社殿の前で当宮と同寺によって竣工奉告祭と落慶法要が厳かに営まれ、同日を登天天満宮の例祭日と定め、今年、竣工以降最初となる例祭が斎行された。

菅公は御生前、第十三世天台座主の尊意師を「人生の師」と仰がれ、仏教を深く学ばれたと伝わっており、当宮所蔵の国宝『北野天神縁起絵巻』（承久本）にもその関わりが随所に描かれている。

登天天満宮は、宇多天皇の篤い信頼を受けて右大臣となつて政務を行っていた菅公が、左大臣藤原時平の讒言によって大宰府に左遷され、薨去された後京で頻発した災いが、菅公の怨霊の仕業として恐れられた。そこで尊意師による怨霊調伏の修法や説法によって菅公は十一面観世音菩薩となり、祈願する者を災難から守ることを誓つて比叡山中から稲妻の如く白煙となつて天に登られたという伝説により創建された社である。

## 当宮と延暦寺の御神縁を今に伝える 登天天満宮例祭斎行

宮司の玉串奉奠に引き続き、延暦寺の獅子王圓明執行、曼殊院門跡の松景崇誓執事長、神社本庁総長の田中恆清石清水八幡宮宮司、当宮責任役員で親友会グループ会長の田邊親男氏らが次々玉串を捧げて拝礼した。

例祭・御霊会を終え、宮司は参列者らへの挨拶の中で「延暦寺の皆さまのご支援により、今年も立派に御霊会を営むことが出来感動している。再来年に迫った菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭には、北野祭が往時のように盛大に斎行されるよう願っている」と、述べた。



京都市農協朱雀野支部より奉納された野菜



曼殊院門跡 松景崇誓執事長 玉串拝礼



延暦寺獅子王圓明執行 玉串拝礼



# 『北野祭』の祭礼行列、氏子地域を雅やかに渡御

神幸祭は秋晴れ、還幸祭は小雨模様ながら、三基の御鳳輦を中心に豪華な渡御列の往還に沿道沸く



上七軒通りを巡行する村上天皇御寄進の第一鳳輦



氏子区域を華やかに巡行

今年の「令和の北野祭」の掉尾を飾る祭礼行列が、十月一日から五日まで斎行された。一日の神幸祭は爽やかな秋晴れ、四日の還幸祭は時折小雨に見舞われたが、御神霊を奉遷した三基の御鳳輦を中心とする豪華な渡御列が氏子地域を巡行し、沿道の人たちは雅やかな行列を見守った。

神幸祭祭礼日の一日、午前九時過ぎから御本殿で出御祭が斎行され、官司が祝詞を奏上した後、三基の御鳳輦に御祭神の御神霊が奉遷された。午後一時、御鳳輦を中心に獅子・導山・梅鉢・松鉢・花傘・担い茶屋・八乙女を始めとする稚児行列や供奉者などの行列が西ノ京御旅所に向かって一の鳥居前を出御した。一の鳥居前では、神職が北野祭の由緒を説明し、祭礼行列



八乙女舞「田舞」奉奏



巡行に先立ち八乙女・稚児の清祓





七保会奉製による甲御供



表千家 左海大 宗匠ご奉仕による献茶祭

の威儀物一つ一つについてその解説を行うことで、渡御列を一目見ようと集まった多くの参拝者や観光客に、祭礼の意義や渡御列の意味を理解してもらいながら見学して頂いた。また、新調された北野祭のパンフレットを手に取る人も多く、英語版も外国人の見物者に好評であった。

一の鳥居前で催された恒例の北野神興会・北野祭保存会主催の「担い茶屋茶会」も好評で、一服を楽しみながら行列を見守る人が多数見られた。

午後四時御旅所に着御し、神興殿に収められた御鳳輦の前に宮司以下神職が着御祭を斎行、宮司が祝詞奏上し、氏子講社の宮階有二講社長が玉串を奉り、役員一同が天神様の無事なる着御に拝礼をした。この後、八乙女が「鈴舞」「田舞」を奉奏、八乙女を始めとする稚児や梅風講社の小石原満講社長が玉串を奉った。

御旅所の境内とその周辺には多くの露店が並び、神興殿の周りには着御祭の模様や八乙女舞を一目見ようとすると多くの参拝者で人垣が出来るほどであった。

境内の一角には西之京瑞饋神興保存会によって奉安された御輿型の瑞饋（通称ずいき御輿）が展観され、多くの参拝者が見学した。

二日は午前十時から御旅所神興殿において、北野祭献茶祭が斎行され、表千家の左海大<sup>さかいひろ</sup>宗匠の御奉仕により御鳳輦に奉遷された御祭神と豊臣秀吉公を祀る豊国神社にお供えする濃茶と薄茶が点てられた。またこの日夕刻からは、神若会北野天神太鼓会による和太鼓の奉納も行われ、多くの地元参拝者が勇壮な太鼓の音に聞き入った。

三日、御旅所神興殿では午後三時から西ノ京七保会による特殊神饌「甲御供奉饌」が斎行され、七保会神部正三宰領が祈願詞を奏上し、会員を代表し玉串を奉った。「甲御供奉饌」は、室町時代、阿波の三好長基勢の京への侵攻を西ノ京神人の協力のもと、幕府に代わり朝倉敏景勢が防いだ事により、足利家十二代將軍吉晴公がその功績を称え、北野社に甲御供を奉饌したこ



天神様を先導する御羽車・供奉牛



担い茶屋茶会





御輿型の瑞饋



后宴祭 八乙女舞奉奏

けられ、参拝者らが一服を楽しんだ。

四日は、午前十時から御旅所神輿殿で還幸祭出御祭を斎行。午後一時、供奉者総勢二百人により三基の御鳳輦を中心とする渡御列が御旅所を出御した。途中から牛の曳く御羽車も加わり、往時の姿を受け継ぐ豪華な渡御列が都大路を練り歩いた。

この日は時折小雨の降るあいにくの空模様となり、雨具装着での渡御となったが、幸い本降りとはならず、渡御の終盤には雨も上がり晴儀の姿で行列が進んだ。門前町である上七軒通では、芸舞妓の出迎えも影響し、通りは人垣で超満員となったが、三基の御鳳輦は雅に巡行し、御本殿内に収められ、午後五時より着御祭を斎行し、渡御の祭礼は滞りなく執り納められた。

なお祭礼期間中、御旅所に奉安されていた「瑞饋」は、西之京瑞饋神輿保存会の手によって、五穀豊穡を祈念し氏子区域を練り歩き、本社まで巡行した。

五日は午後三時半から御本殿で后宴祭を斎行し、八乙女が「鈴舞」を奉奏、その後、中庭にて「田舞」を舞い、参拝者の拍手喝采を浴びた。

この後、御本殿で稚児奉仕終了奉告祭が執り行われ、本年の北野祭の祭礼行列の諸祭儀を恙なく終えた。



八乙女稚児行列

とを始まりとする古い歴史がある。

夕刻には、北野神輿会・北野祭保存会によって「担い茶屋」茶会が開かれ、原田いずみ氏奉仕による献茶と呈茶席が設

# 令和七年度

## 北野祭稚児奉仕者名簿

(順不同・敬称略)

### 役名

### 八乙女

森田 桜

菅田 ひまり

菅田 きほり

川島 采唯

小川 綾花

霜野 伊都季

上原 小榛

浅野 伊都季

平澤 笑鈴

吉田 亮太

泉田 裕顕

川端 佑季

吉田 智顕

奥倉 彰吾

吉田 美和

末田 旺葵

永田 誠汰郎

大東 要人

槻岡 迪寛

木内 考祐

林内 蒼一朗

野田 英寿

野田 宗哉

汗衫

半尻

水干

童子

祢

野田 尚哉

堀中 雅訓

高木 未来

田中 木綿

吉田 芽生

権禰宜女

北野楽部



# 「北野七夕祭」 オープニングセレモニー 酷暑の中、地域住民ら元気に参加



萬燈提灯と七夕笹のライトアップ

「北野七夕祭」のオープニングセレモニーが八月一日夕、絵馬所前に地域住民ら約二百人が参加して賑やかに行われた。

菅公が詠まれた御歌「彦星の行きあひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」にちなみ、当宮では古くから重儀「御手洗祭」を中心とした七夕神事が斎行されてきた。こうした七夕信仰は、様々な神事・奉納行事となつて今に受け継がれている。

「北野七夕祭」のオープニングセレモニーは、「御手洗祭」の斎行を前に地域住民とともに毎年行っている。九月の例祭・北野御霊会、十月の北野祭祭礼行列に至る一連の祭典の始まりを告げる重要なもの。参加者は楼門前から絵馬所前まで行進して開会式に臨んだ。

神若会北野天神太鼓会が威勢よく太鼓を奉納した後、挨拶に立った宮司が、偉大な学者・政治家・詩人であった菅公について話し「彦星」の和歌は、「冤罪で大宰府に流された菅公が京都のことを思いながら創られた望郷の歌であった」とし、「当宮は七夕とも密接に関係のある神社。猛暑の夏を天神さまの御利益を頂いて乗り切つて下さい」と、挨拶した。

次いで来賓の紹介があり、代表として古川博規京都府副知事、岡田憲和京都市副市長がそれぞれ挨拶された。

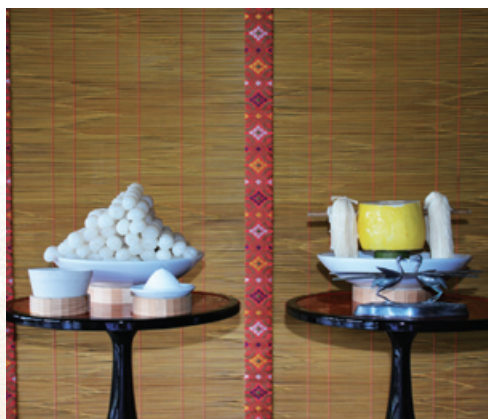
この後、清祓の儀があり、参加者は一般公開に先立って御手洗川に入って足付け燈明神事に臨み、さらに御本殿に昇殿して石の間を通り抜けし、展覧された御神宝に見入った。

## 「御手洗祭」 厳かに斎行

古くから北野の七夕祭として知られる御手洗祭を、八月七日午前十時から御本殿で厳かに斎行した。

『広辞苑』にも「北野の御手水」として一項目立てられるほど著名な七夕神事で、古くから神事執行の記録が遺っている。

御神前には、古来からの伝え通り菅公御遺愛と伝わる松風の硯・角盥・水差し、梶の葉に色紙を添えてお供えし、五穀豊穰・万民の無病息災を祈願した。



御手洗祭でお供える特殊神饌



地元の方々が勢揃いしたオープニングセレモニー「北野七夕行列」





学業大祭



御本殿石の間通り抜け神事

## 御手洗川足付け燈明神事 猛暑続き、平安京ゆかりの神事賑わう

境内を流れる御手洗川に素足で入り、心身を清め、無病息災・災厄退散を願う「御手洗川足つけ燈明神事」を、八月二日から十八日まで斎行した。

平安京ゆかりの清めの神事「北野御手水神事」にちなむもので、毎年この時期に斎行される恒例の神事である。ここ数年当たり前となった連日の猛暑を受け、涼を求めて順番待ちをする参拝者の列が毎日のように続いた。浴衣やズボンなどの裾をめくって御手洗川に入った参拝者の「冷たい!」「気持ちいい!」の声があちこちで上がり、五色の願いろうそくに灯りを点して奉納し、無病息災を祈る姿が続いた。

## 国宝「御本殿石の間通り抜け神事」 一年に四日間だけの特別参拝

国宝に指定されている御本殿の「石の間」を通り抜けて、御内陣間近で参拝することが出来る「御本殿石の間通り抜け神事」を今年も八月八日から十一日まで斎行した。

宝物類の虫干しを兼ねて斎行されるこの神事は、普段は神職しか入れない「聖域」に入り、普段よりも近い位置でお参り頂ける一年に四日間だけの特別参拝とあって、毎年多くの参拝者で賑わう。

緊張気味に石の間に入った参拝者は、神職の説明に耳を傾け、御神前にて正座しお参りする人が相次いだ。宝物類の展覧では、平安京の大路小路に置かれて邪気を祓ったとされる十三体の木像鬼神像（重文）の前に行列が出来た。

## 子どもの健やかな成長と学業向上を祈願 学業大祭斎行

子どもの健康と学業向上を天神さまに願う学業大祭を、八月三日午前十一時から御本殿で斎行した。

学業大祭は、昭和二十七年斎行の菅公御神忌千五十年大祭の折に、子ども達の学業の発揚を願って斎行された「勸学大祭」の後を引き継ぎ毎年夏休み期間中に斎行される恒例の伝統神事。

猛暑の中、子どもとその親約二百人が参列した。参列者の芳名録が御神前に供えられ、斎主が祝詞を奏上し、参列者の代表の子どもが玉串拝礼し、合わせて全員が子どもの健やかな成長と学業の向上を祈願拝礼した。



清水に足をつけ厄を払う「御手洗川足つけ燈明神事」



北野インフォメーションガイドによる外国人向けツアー





玲月流篠笛奉納演奏



北野天神太鼓会による和太鼓奉納演奏

この日は雨のため、初めてホール内での演奏となりました。玲月流初代の森田玲氏、妻の香織さん、長女の桜さん（小学校六年生）の森田一家のほか門下生も加わり、計六人が、お囃子やわらべ歌、七夕にちなんだ「ゆきあい」などを披露し、拍手を呼んでいた。香織さんは「ホールでの演奏は初めてだが、音がよく通り、楽しんで頂けたと思います」と、話されていた。

### 玲月流篠笛の奉納演奏

玲月流篠笛の奉納演奏が十一日夕、文道会館ホールで行われ、満席の聴衆の耳を楽しませた。

篠笛は、日本に古くから伝わる竹の横笛。玲月流篠笛は、透明で清らかな音色が特色で、京都を拠点としながら各地で活動し、当宮でもしばしば奉納演奏を行っている。



今年も北野夏祭り開催

### 梅苑内の洲浜ライトアップ 「北野夏祭り」賑わう

北野商店街振興組合の出店による「北野夏まつり」が八月八日から十一日までと十五日から十七日までの二回に分け、夕刻から夜にかけて梅苑内の洲浜をライトアップして開催された。風船つりやかき氷、フランクフルトなどの店が出店する中、多彩な奉納行事も行われ、涼を求める夜間の参拝者で大層賑わった。

梅苑内の茶店前では、西陣和楽園、京和幼稚園（八日）、北野幼稚園（九日）の園児らが七夕奉納として歌などを披露し、見守る親や一般参拝者から拍手喝采を受けていた。

### 和太鼓の奉納演奏

北野夏祭りをより一層盛り上げるべく、十日夕刻より、神若会北野天神太鼓会による和太鼓奉納演奏が行われた。

当日はあいにくの空模様であったが、ホールに展開された和太鼓から奏でられる力強い音色に皆様に聞き入り、陰鬱な天候を忘れさせる割れんばかりの拍手が送られた。

この日は、『三宅』、『一心』など八曲が演奏された。なかなか間近で見る機会のない和太鼓の演奏が目の前で披露され、夏祭りに訪れていた子どもは目を輝かせて演奏に見入っていた。



西陣和楽園

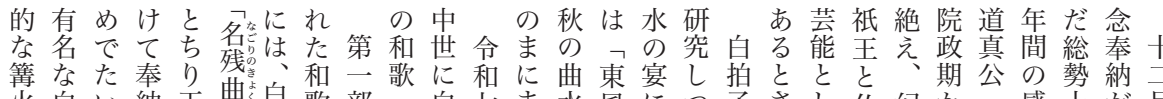


北野幼稚園



京和幼稚園





手研 つつ にお 風 水の まに 七年 日柏

[illegible]

第一部 下巻終り

風雨何に心をたづなり。酒足間にてつゝ、一人明主ましませば　津波を置て何かせん  
 白雲の影をぞそよと　<sup>（中略）</sup>  
 君は鈴屋山　緑の小松の行末を引かれ久ひやかれやな。  
 長坂のうらふちへ　王母が桃花を手にするも、  
 不忠門内にては、東玄翁を手ずかり　伴道路のみきえたり。  
 打虫も千代は秘めしやな。　打蟲は千代は秘めしやな。

經王と仏　　　氣玉　相宗　弘前園　桜花

今様　君を待つて見る御人は　千代は秘めねど来ればか

今様  
私も昔には式なり  
我等も終には式なり  
いづれも私能具せる身を  
願つるのみと悲しけれ

和歌  
萌え出づるも 枯るるも同じ  
野辺の草 いづれか秋に  
あはではつべき

千手の宴 千手通 重庵 藤村正剛  
朗詠 羅綺の重衣たる情ない事を幾婦に妬む

今様  
極楽わがはん人はみな  
弥陀の名号唱へし

母  
「五言集」  
琵琶  
「皇極の念」

静の舞  
静御前 演

和歌 しづやしづ 陵のをだまき 繰り返し 昔を今に なすえしもがな  
和歌 吉野山 峯の白雪 踏み分けて 入りにし人の 跡ぞ恋しき

\_\_\_\_\_

きける和歌、歴史上の白

Copyright © 2009 John Wiley & Sons, Ltd.



## 北野文化研究所 研究ノート

# 特別展 北野天神への誘い

室長 松原 史



令和九年に迎える式年大祭―菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭に先駆け、令和八年四月十八日（土）に京都国立博物館にて開幕する北野天神展。本稿では、ひと足さきに北野天神展の内容と見どころについてご紹介し、北野の天神信仰の世界へと皆様をご案内させていただきたい。

### 【展覧会趣旨】



図1 根本御影 北野天満宮蔵

言により大宰府に左遷され、失意のうちに薨去されてしまう。その死後、京に降りかかったさまざまな災害や関係者らの死を通して怨霊として恐れられた菅公は、畏れ敬い篤く崇敬されことで、翻って皇城鎮護の神―国を守る神―善神として祀られるようになる。

この度の展覧会では、前回の千百年大萬燈祭の折に、同じく京都国立博物館で開催された北野天満宮神宝展の内容をさらに充実させ、当宮に伝わる国宝・重要文化財十七件を中心に、全国の天神信仰ゆかりの御神宝を一挙公開し、新たな切り口で天神信仰の歴史と広がりをも物語る展覧会を開催すべく現

在準備中である。学問の神様、受験の神様としてのイメージが大変強い当宮であるが、その歴史を繙けば、学問だけではない様々な信仰の形を奉納品からも窺い知ることができる。

## 特別展 北野天神―天神さま、はじまりの物語

### 【展示構成】

#### 第一章 天神信仰

#### 第二章 北野天満宮の歴史

#### 第三章 北野天満宮と芸能・文化

### 【各章の内容と見どころ】

#### 第一章 天神信仰

―人から神へ―菅公の神あがりと神仏習合に注目！―



図2 国宝 北野天神縁起絵巻（承久本）巻5 部分 時平抜刀 北野天満宮蔵

第一章では、学者であり政治家でもあった菅公ゆかりの御神宝、道明寺天満宮蔵の国宝菅公遺品など御遺愛の品々をご紹介しますとともに、人間菅公が如何にして神になっていったのか、怨霊から善神への転換、天神信仰の成立と広がりを繙いていく。特に、北野御霊会の再興等で歴史検証に取り組んできた当宮の神仏習合時の天神信仰に関して、長谷寺や天台宗と深い縁を結び、本地垂迹である十一面観音としての信仰を深めていく様子に關しても、改めて繙く予定である。かつて北野社（当宮）で祀られていた十一面観音像や十一面観音の特徴を備えた天神像なども合わせてご紹介し、おそらく多くの皆様にとって意外性のある神仏習合時の天神信仰の諸相もご覧いただきたい。



## 第二章 北野天満宮の歴史

——様々な北野天神縁起絵巻一挙公開！——  
——国宝《北野天神縁起絵巻（承久本）》初の全巻全場面展示！—— ※期間中、巻替えあり

菅公の御生涯と北野天満宮の創建（京へ祀られるまで）、そしてその後の靈驗譚などが語られる北野天神縁起絵巻。天神信仰が全国に広がるのとともに、全国にその作例を見ることのできる。根本縁起と呼ばれる当宮所蔵の国宝《北野天神縁起絵巻（承久本）》、重要文化財の弘安本、光信本、光起本、その他にも、他所にて重要文化財指定されている天神縁起絵巻の多くが全国より一堂に会す、またとない機会となる。特に国宝の承久本は、当宮の至宝であるだけでなく、明治に活躍した御雇外国人アーネスト・フェノロサが『ダンテの『神曲』がヨーロッパ文学の至宝であるように、この絵巻は全世界の美術における最貴重な宝物』と絶賛し、その価値を世に知らしめた逸品である。縦五十センチメートルを超える日本の絵巻として最大の画面を持つ最古の天神縁起の世界を、二十五年に一度の萬燈祭における特別公開の機会にぜひご覧いただきたい。

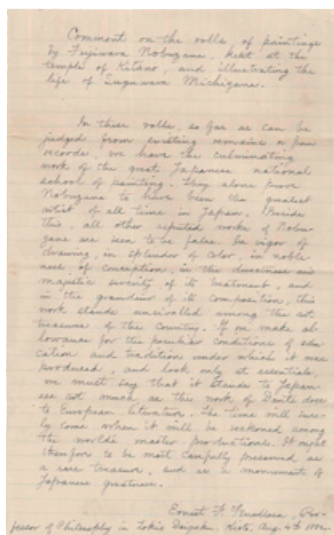


図4 フェノロサの手紙  
北野天満宮蔵



図3 国宝 北野天神縁起絵巻（承久本）巻六 部分 清涼殿落雷  
北野天満宮蔵

また北野天満宮の創建・草創の物語と、時代ごとに朝野を問わず多くの人々から篤い崇敬を受けて繁栄した歴史、社殿の造営や寄進の記録を繙き、北野天神縁起絵巻で語られる天神信仰の物語と歴史記録の双方を展観する。

## 第三章 北野天満宮と芸能・文化

——学問だけではない天神信仰の諸相を顕彰！——  
——源氏の重宝 兄弟刀揃い踏み！——

第三章では、天神信仰の諸相を展観する。現在では受験合格祈願、学問の神としての信仰を集める天神様であるが、これは奥深い天神信仰の側面ではない。菅公は学問のみならず、和歌・漢詩・連歌など詩歌の神であり、戦勝祈願の神としても敬われてきた。北野の地は、各時代において、芸能と文化の一大発信拠点としての役割を担ってきたのである。本章では当宮に奉納された数々の御神宝や、往時の賑わいを伝える名品を通じて、北野天満宮が日本文化に与えた影響を繙く。歌舞伎発祥の地を物語る屏風絵や、武神としての信仰を物語る刀剣、鎧などの武具も展示予定であり、近年新たな信仰とも言うべき人気を誇る、源氏の重宝 当宮所蔵の太刀《鬼切丸 髭切》と大覚寺様ご所蔵の太刀《薄緑 膝丸》も同一ケースにて展示予定である。



図5（右）重要文化財  
太刀《鬼切丸 髭切》北野天満宮蔵  
図6（左）重要文化財  
太刀《薄緑 膝丸》大覚寺蔵

### 特別展 北野天神

令和八年（二〇二六）四月十八日（土）～六月十四日（日）  
京都国立博物館にて開催 \*天神信仰をものがたる  
国宝・重要文化財約五十件が全国より大集結！

※秋号に掲載を予定しておりました刀剣プロジェクトの追加報告に関しましては、編集の都合上次号以降にて掲載予定です。







歌舞伎俳優（人間国宝） 片岡仁左衛門丈

## 東京・歌舞伎座での『菅原伝授手習鑑』の成功を祈願し昇殿参拝 「菅丞相さまを務めさせて頂くことへの感謝」



歌舞伎俳優で人間国宝の片岡仁左衛門丈（八十一歳）が、八月十七日、当宮を訪れ、昇殿参拝された。九月の歌舞伎座での松竹創業百三十周年を記念する公演『菅原伝授手習鑑』（九月二日～二十四日）の成功を祈願するもので、菅公の御神前で「お参りさせて頂き、菅丞相さまのお役をさせて頂くことへの感謝の気持ちで一杯でした」と話された。  
（構成・編集部）

### ◎楽屋に『南無天満大自在天神』の軸を掛け、牛肉食は断つ

齋してこの役に取り組んだ祖父（十一代目）、父（十三代目）の名を汚さないように一生懸命頑張りますので、よろしく願います」と挨拶された。

この後、記者からの質問に應える形で、役に取り組む仁左衛門丈の姿勢が披露された。楽屋には「何代か前にこちらから頂いた『南無天満大自在天神』の掛け軸を掛けて拝み、牛が天神さまの使いであることから公演中は大好きな牛肉を食べない」など、自らを律するという。

大阪市の生まれで、京都にも御縁があり、当宮にもよく参拝するが、御本殿に昇殿参拝し、成功祈願したのは初めてという。「ここへ来ると、何かホッとします」と、笑顔が弾けた。丞相役はどう取り組まれますかという質問には、



『菅原伝授手習鑑』は、「天神さま」として親しまれている菅原道真公（菅丞相）が藤原時平の讒言による大宰府への流罪を題材にし、丞相を取り巻く人間模様を描く歌舞伎三大名作の一つ。仁左衛門丈は、「道明寺」と「筆法伝授」の二幕で菅丞相役を務めることになり、この日の昇殿参拝となった。昇殿参拝後、三光門前や飛梅の前で記念撮影に応じた後、風月殿で記者会見が行われた。冒頭、仁左衛門丈は「三十年前の初演から、今回で『道明寺』は七回目、『筆法伝授』は六回目となる丞相役です。務めさせて頂くことは非常にありがたいことです。頂いた役はどれも大事なことは当たり前ですが、やはり丞相さまというのは特別でございます。全国にたくさんのお社があり、多くの信者の方がいらっしやいます。『天神さまって、あんな人やったのか』と、言われないように演じなければ、丞相さまに申し訳がないです。精進潔



「丞相役はとても大事なお役です。『務める』のではなく『務めさせて頂く』という気持ちが必要です。ともかく演技という演技はありません。まず台本を読み込んで、その気持ちに成りきって後は自然体で動くしかありません。そして自分なりの丞相さまをイメージするしかありません。下手に演技をしてしまうと、演技に意識が行ってしまいダメになりますから」。

記者会見後、当宮宮司と話し合って頂いた。

### ◎御神前で手を合わせ、ひしひしと感じたありがたさ

**宮司** 本日は歌舞伎座での九月公演『菅原伝授手習鑑』の成功を祈願する昇殿参拝でした。菅公の御神前において、菅丞相さまを演じられる仁左衛門さまが何をお感じになられたかをお聞かせ頂ければと思います。



**仁左衛門** まあ、ともかく、御神前では、ありがたさをひしひしと感じました。そして、記者会見の席でも申し上げました通り、お役をさせて頂くことへの感謝とお参りさせて頂いたことへの感謝の気持ちで一杯でございました。

**宮司** 全国に神社はおよそ八万社鎮座しております。その多くは神話に由来するお社でございますが、人としてこの世に生きられ、死後に神となられた菅原道真公（菅公）を祀る天満宮・天神社は一万社以上ございます。正直で清廉潔白なお人柄であり、すぐれた学者・教育者・政治家で



あるとともに、漢詩や和歌、詩歌などに優れ、豊かな美的感受性と広い視野を兼ね備えた当代きつての文化人として、篤い信仰を集めて参りました。歌舞伎や文楽など伝統芸能を通じて、菅公の輝かしいご功績が伝え続けられてきたと感じております。

**仁左衛門** 一万社以上ですか。すごい数ですね。

**宮司** 二十年ほど前、南座での顔見世興行で『天満宮菜種御供―時平の七笑』という芝居が掛かった際、時平役の片岡我當、菅公役の坂東彦三郎の両丈が当宮を参拝され、演ずることの難しさを吐露されていました。

当たり役の一つ、『菅原伝授手習鑑』の菅丞相さまを演じる上で大切にされていることなどおありでしょうか？

**仁左衛門** 私自身は決して当たり役だとは思っていません。ただ先ほどおっしゃった一万社以上の天神さんへお参りされる人たちから拝まれる役をやる、ということとは責任重大です。歌舞伎はフィクションですが、皆様方に、こういうかたちの道真公もおられた、という思いを抱いて頂けるように演じられたいと思います。神さまとして祀られているお方ですので、それを汚してはならないのです。私が最初にこのお役を務めさせて頂いた時、大それた事ですが、神さまのお姿をうつすことをお許しください、と祈りました。それぐらいの心構えが必要です。まして、「道明寺」というお芝居は、いろん





な話が盛り込まれていますが、舞台の盛り上がりはあまりありません。でも見終わったお客さまから「よかった」と言って頂かねばならない。演じる難しさを感じています。

**宮司** 人間国宝になられた折、たとえ不入りな時があっても安易な客寄せに走らず、各役者が基本をしつかり身につけることが歌舞伎の発展に繋がるとして、即座に造る氷と時間をかけて造る氷の違いを話されており、共感を覚えました。また文化功労者になられた際は、古典を掘り下げること、歌舞伎の魅力を伝えたい、体力の許す限り頑張りたい

いと仰っておられました。齢八十一歳にしてバリバリの現役の立役者、頭が下がります。

## ◎北野は阿国歌舞伎発祥の地 文化発信の中心地

**仁左衛門** そんなことに感銘を受けられたらあきません。私だけでなく皆がやっております。どのような形にしろ、舞台が務められる限りやります。役者は皆そう思っています。八十一歳で現役なんて、大したことではありません。自分の年齢なんて考えたことありませんし、未だ若手の筆頭ぐらいに思っています。自分の年齢を感じる時は、体力が衰えた時でしょう。気持ちちは若い時と



「阿国歌舞伎図屏風」 六曲一隻 桃山時代(縦88.0cm 横268.0cm) 京都国立博物館蔵

北野天満宮は出雲阿国が都で初めて「ややこをどり」(歌舞伎をどり)を奉納した場所として伝わる

何ら変わりありません。  
**宮司** それが素晴らしいと思います。さて、この北野天満宮の境内では慶長八年(二六〇三)、出雲阿国が初めて「ややこ踊り」、いわゆる歌舞伎踊りというものを公演しており、故に「歌舞伎発祥の地」と謳われてきました。

**仁左衛門** この北野が発祥なんですか？ 四条河原だとばかり思っていました。

**宮司** 今から四十年ほど前、阿国像を当宮に建立する話がありました。しかしその当時の宮司が「鎮守の杜に由来する処に像などの評価の対象物否」として「境内に建立はまかりならん」とお断りをしたため、敢えなく四条河原に建立されたという経緯があります。しかし、文献・古文書には当宮境内で踊った史実がはっきり遺されており、間違いありません。北野は歌舞伎をはじめとする革新と伝統が融合し育まれ発信されてきた文化拠点ともいえる場所でした。





© 松竹

**仁左衛門** 阿国

の踊りがルーツ  
といつても、歌  
舞伎は様々変  
わつてきて、今  
の形が出来たの  
は江戸時代だ  
と思います。でも  
阿国の名前が一  
世を風靡したの  
は、彼女が何か  
特別なものを  
持っていたから  
でしょう。

© 松竹



**宮司** 歌舞伎は  
何時の時代も  
人々を愉しませ  
てきた素晴らし  
い芸能ですね。  
**仁左衛門** そう  
です。歌舞伎は  
大衆を喜ばすも

のです。歌舞伎のあり方は時代にに応じて変わっていきませんが、心はきちんと受け継いでいかねばなりません。その根底にあるのは修業です。歌舞伎役者の家に生まれたものとして、歌舞伎役者にしか出来ないものをしっかりと残す、伝えていきたいと思っています。

**宮司** その道の家に生まれられた方にしかわからない至言だと受け止めさせて頂きます。

結びに、当宮には毎年、修学旅行生を中心に全国から多くの若者が参拝いたします。若い世代に向けてのメッセージを一言、お願いいたします。

## ◎神を信ずる心は大事

**仁左衛門** それは難しいです  
ね。みなさん、いろいろな仰い  
ますけど、私にはとてもとて  
も。ただ、神を信ずる心は  
大事だと思っています。それ  
で自分も救われるし、人も救  
える。そういう気持ちになる  
ことが大事だと思っています。

**宮司** ありがとうございます。

令和九年に迎える菅公御神忌  
千百二十五年に向けて菅公を  
顕彰すべく北野祭の復興を始  
め、様々な神事や行事を準備  
しています。今後も『菅原伝  
授手習鑑』の公演が行われ、仁左衛門丈が元気に舞台に立ち続けられること  
を心よりお祈りいたします。本日は有難うございました。



### 片岡仁左衛門（かたおかになえもん） 丈略歴

代数…十五代目 屋号…松嶋屋

昭和十九（一九四四）年三月十四日、十三代目片岡仁左衛門の三男として大阪に生まれる

昭和二十四（一九四九）年九月大阪・中座にて『夏祭浪花鑑』市松で本名の片岡孝夫で初舞台

平成十（一九九八）年一・二月歌舞伎座にて『吉田屋』の伊左衛門、『助六曲輪初花桜』の助六

ほかで十五代目片岡仁左衛門を襲名

平成十八（二〇〇六）年十二月日本芸術院会員

平成二十七（二〇一五）年十月重要無形文化財保持者各個認定（人間国宝）

平成三十（二〇一八）年十一月文化功労者

令和七（二〇二五）年十月文化勲章

昭和三十九（一九六四）年大阪・朝日座にて初役で挑んだ『女殺油地獄』河内屋兵衛が高く評価される。その後は義太夫狂言を中心に力量を発揮、評価と人気を高めていった。数々の名演の中でも、父から継承した『菅原伝授手習鑑』の菅原相は、知性と愛、清廉さがにじみ、最高の当り役といわれて久しい。後進の育成にも熱心に取り組み、上方出身俳優の研修発表会「上方歌舞伎会」の指導、かつて兄の故二世片岡秀太郎が指導・監修を手掛けていた「松竹・上方歌舞伎塾」の流れを汲む若手・中堅俳優らの公演「あべの歌舞伎晴の会」の指導・監修を務めるなど、芸の伝承にも尽力している。昭和六十一年度文化庁芸術祭賞、昭和六十二年度日本芸術院賞、平成十八（二〇〇六）年紫綬褒章、平成二十八（二〇一六）年読売演劇大賞大賞・最優秀男優賞、令和七（二〇二五）年文化勲章ほか



## 第十八回「曲水の宴」開催

青空広がる絶好の秋日和の下  
平安の雅再現で観覧者を魅了



第十八回菅公顕彰 曲水の宴 奉仕者

第十八回「曲水の宴」が十一月八日、紅梅殿前の船出の庭で開催された。澄んだ青空の広がる絶好の秋日和の下、平安の雅を今に伝える華やかな宴が展開され、見守る人たちを魅了した。

「曲水の宴」は、庭を流れる小川に酒を入れた杯が流され、川沿いに座った人がそれを飲み、兼題に即した詩歌を賦するという雅な宴。中国から伝えられ、奈良・平安時代には宮中で盛んに催された。その高い文才を評価された菅公は、宇多天皇主宰の「曲水の宴」に文人として幾度も招かれている。

旧儀の復興に力を入れている折、平成二十八年十一月、こうした故事に基づき、紅梅殿船出の庭の完成に伴い「曲水の宴」の再興となった。それも、「和魂漢才」の菅公精神に基づき、和歌だけでなく漢詩も賦す「和漢朗詠」という当宮独自の形のものとし、そして、かつて北野社にもいたという白拍子を登場させるといふ他では見られない独特のものとなった。

平安装束の男女計八人の詠者が奏楽の中、静々と入庭し、二人一組となって流れに沿って着座した。漢詩を賦す男性詩人は、御立尚資（京都大学経営管理大学院客員教授）、晴間進（上七軒歌舞会会長）、久世章斗（五辻の昆布 代表取締役社長）、山本空愛（京都子ども観光大使、京都教育大学附属桃山小学校六年生）の四



平安時代を想起させる雅やかな宴



来賓代表 衆議院議員 勝目康氏



手伝ったため、その愛くるしい仕草が笑いと拍手を呼んでいた。  
出来た漢詩・和歌は、それぞれ本人によって披講され、解説も加えられた。なお、書かれた色紙・短冊は、終了後、菅公の御神前に奉納された。



第二詠者  
黒田正玄氏 晴間進氏



第一詠者  
御立尚資氏 中村宗哲氏



第四詠者  
吉野詞春氏 山本空愛氏



第三詠者  
吉岡更紗氏 久世章斗氏

氏。和歌を詠む女性歌人は、中村宗哲（千家十職 塗師）、黒田正玄（千家十職 竹細工・柄杓師）、吉岡更紗（染司よしおか 六代目当主）、吉野詞春（京都子ども観光大使、京都市立二条城北小学校六年生）の四氏。兼題は「神」「酒」「紅葉」「友」。

紅梅殿上の来賓を代表し地元選出の衆議院議員勝目康さんが「私も昨年春の宴（第十五回）で詩人を務めさせて頂いた。春とは名ばかり、吹雪の中での宴で、かじかむ手で詩をしたためたことを記憶している。きょうは、秋としては暑いぐらいの好天、ご覧の皆さまとともに楽しみたい」と、挨拶された。進行・解説は有斐斎弘道館館長の濱崎加奈子氏によって進められ、昨年と同様、外国人観覧者のために英語の解説も行われた。

殿上で、菅公作の「花時天似酔」が詠じられ、白拍子が舞い、流觴曲水が始まり、詩人・歌人が流れてきた杯を口に当て、兼題に基づいた詩と和歌を筆でしたためた。杯の流れが悪いと水干姿の童子が竿を使って



童子（吉田智顕さん・吉田彰吾さん・松山楓さん・霜野小榛さん）



幻の芸能 白拍子の舞



第十八回 曲水の宴 詩歌

一番 神

詩人 御立 尚資（京都大学経営管理大学院 客員教授）

神

神 山立尚資  
東山排悶獨彷徨  
翠麓欲眠稱玉觴  
夢裡天神傳妙訣  
醒來唯有白梅香

東山 悶ひを排ひて独り彷徨し  
翠麓 眠らんと欲して玉觴を称ぐ  
夢裡 天神 妙訣を伝ふ  
醒め来れば唯だ有り 白梅の香

悩みを解くために気晴らしにひとりで東山を歩き回り、  
山のふもとで眠りにつこうとして美しい杯を手にとる。  
すると夢に天の神が現れてヒントをくださった。  
目覚めるとその姿はなく、ただ白梅の香りだけが残っていた。

\*学問上の問いを抱えた詩人が、ふと解決への糸口が見つかったのは、神（菅公）のおかげだったかと自身の体験と神恩感謝の想いを詠んだ詩。

歌人 中村 宗哲（千家十職 塗師）

神 おだたきやうろしに合はせたる  
我が両の手を生み出す宝

お火焚ぎや うろしの神に 合はせたる 我が両の手の 生み出す宝

\*千家十職の塗師として、毎年十一月十日の漆のお火焚ぎの日に漆の神様へと手を合わせ、数々の茶道具を生み出してきた歌人が作品制作への自身の想いを詠んだ和歌

三番 紅葉

詩人 久世 章斗（五辻の昆布 代表取締役社長）

紅葉

紅葉 久世章斗  
楓樹映り水自清  
風和葉舞影分明  
坐観眼下好風景  
忽覚中心百福生

楓樹 映川水自清  
風和 葉舞影分明  
坐観 眼下好風景  
忽覚 中心百福生  
カエデの木が映った川は澄みきって静かであり、  
風が吹いて紅葉を舞い上げるさまがはつきりと見える。  
目の前のその美しい風景を何気なく見ていると、  
いつの間にか心の中が幸せな思いで満たされてゆく。

\*北野天満宮のほど近くで代々昆布屋を営む詩人が、秋の川に紅葉が流れる当たり前の様をみてなんでもない日常が幸せなんだと感じられる、そんな想いを詠んだ漢詩

歌人 吉岡 更紗（染司よしおか 六代目当主）

紅葉 秋風に揺るるもみぢ葉色深く  
うつらうつらと衣染うてん さらり

秋風に揺るるもみぢ葉色深く うつらうつらと衣染めてん

\*染色家である歌人が、風に揺れて、散りゆく紅葉の葉の色が、深くうつりゆく様子は大変美しく、それと同じように自らも糸を染めてみたいという想いを詠んだ和歌

二番 酒

詩人 晴間 進（上七軒歌舞会 会長）

酒

酒 晴間進  
閑道當年上七軒  
豊公茶会衆賓喧  
君看今日美人舞  
且飲花街酒一樽

閑道 當年上七軒  
豊公 茶会 衆賓 喧しと  
君看 今日 美人 舞うを  
且ら 飲め 花街の 酒一樽

閑くところでは昔、上七軒には、  
秀吉公が大茶会を開いて大勢の客が賑やかに訪れたとか。  
ごらん、今は、芸舞妓たちが華やかなおどりを披露している。  
さあ、ひとまずはお飲みなさい、この花街の樽酒を。

\*上七軒歌舞会の会長である詩人が、北野天満宮とともに歩んできた上七軒の歴史を振り返るとともに、花街のお客様にはお酒を楽しく呑んでいたきたいとの信念・想いを詠んだ詩。

黒田 正玄（千家十職 竹細工・柄杓師）

酒 秋の宵くみかはす酒こちよし  
竹の林のさやさと酒こちよし

秋の宵くみかはす酒 こちよし 竹の林の さやさと酒となる

\*竹に深くゆかりのある家業の歌人が、親しい人々とお酒を酌み交わすかけがえのない時間を竹に想いを馳せつつ詠んだ和歌

四番 友

詩人 山本 空愛（京都こども観光大使／京都教育大学附属桃山小学校）

友

友 山本空愛  
切磋琢磨同苦辛  
出言必信自相親  
莫愁今日交情薄  
本有冰心是友人

切磋琢磨 同苦辛  
出言 必信 自相親  
莫愁 今日 交情薄  
本有 冰心 是友人  
互いに励まし高めあつて苦勞をともにし、  
ことばにはきつと信頼があり、自然とよい仲間でいられる。  
近ごろの人間関係は薄いと言われるが心配しなくてよい、  
もともと氷のように清らかな心をもっている人、それが友だちだ。

\*共に高め合い、共に支え合い、共に信じ合うことのできる存在である「友」を大切に思う詩人の気持ちを感じた漢詩

歌人 吉野 詞春（京都こども観光大使／京都市立二条城北小学校）

友 海わたる友を想ひて空見上げ  
輝く月に想ひたくさん ことは

海わたる 友を想ひて 空見上げ 輝く月に想ひ託さん

\*歌人が京都を離れ海を渡った友を思い、見上げた月はきつと友も見ているだろうと、友を想う気持ちを詠んだ和歌





ソムリエにより梅酒の説明を聞きながら  
飲み比べできる特別な体験も



梅酒まつりオープニングセレモニー



梅酒研究会代表理事 明星智洋氏



京都市副市長 岡田憲和氏



京都府副知事 武田一寧氏

なお、梅酒まつり開幕前日の二十一日、紅梅殿で、今年の梅酒品評会の授賞式が行われている。当宮と梅との関係は広く知られているが、酒についても、室町時代に当宮神人に麴造りの特権が与えられたことから酒造関係者の崇敬も篤く、毎年、御本殿で献酒祭を斎行しており、深いご縁がある。

明星代表理事に今年の梅酒まつりの特徴を聞くと「東京などでも梅酒まつりを開いているが、天満宮では「厳選」の名を冠しており、全国梅酒品評会で入賞した梅酒だけを厳選している。品評会で三回金賞をとると殿堂入りだが、今年七つめの殿堂入りが決まり、それも飲める。また、製薬会社とコラボして、ドリンク剤の成分と梅酒をかけた製品も提案した」と、話されていた。

文道会館の試飲コーナーには、全国梅酒品評会で入賞した梅酒ばかり約百種類が並んだ。日本酒系や柑橘系、ブランド仕込みの梅酒などなど各蔵元が工夫を凝らした梅酒が並び、オープンと同時にたくさんの方の愛好家が試飲を楽しんでいた。また、絵馬所の物販コーナーには百三十種類の梅酒が並んだが、すぐに「売り切れ」の張り紙が出される銘柄もあった。

梅酒の普及活動に取り組んでいる一般社団法人梅酒研究会（明星智洋代表理事）主催による「厳選梅酒まつりin京都2025」で、当宮での開催は実に七回目となる。初日の二十二日朝、物販のブースが設けられた絵馬所前で、オープニングのセレモニーが行われ、医師でもある明星代表が「梅酒を国酒に」と挨拶した後、宮司や来賓の武田一寧京都府副知事、岡田憲和京都市副市長らが挨拶を述べた。この後、関係者・来賓が勢ぞろいしてテープカットが行われ、今年の梅酒まつりが開幕した。

当宮は梅、酒ともにご縁が深い。恒例となっている梅酒まつりが十一月二十二日から二十五日まで四日間にあたり開催され、紅葉の見ごろの季節とも重なり、愛好家らで連日活況を呈した。



試飲会場には大勢の梅酒好きが集まった



# 「厳選梅酒まつりin京都2025」 恒例の全国の梅酒飲み比べ、賑わう





菅公御歌「このたびは幣もとりあへず手向山 紅葉の錦神のまにまに」銘歌も遺る菅公ゆかりの紅葉  
**豊太閤の歴史的遺構、史跡御土居もみじ苑** 今年も鮮やか



国宝御本殿ともみじ苑

北野の秋の名物「史跡御土居のもみじ苑」は、十一月一日から十二月十日まで開苑し、期間中多くの入苑者や観光客が錦秋のもみじを楽しんだ。昨年に続き、秋の京都は行楽シーズンとあつて観光客が多いが、特に昨今はインバウンドによる外国人観光客が増加し、当宮にも海外からの参拝者やもみじ入苑者が目立つようになった。今季は夏から続く異常な暑さの影響もあり、もみじの色づきが早まり、十一月中旬にはすでに見頃に、月末には御土居内のもみじが美しく紅葉した。

開苑期間中は、「秋の曲水の宴」を筆頭に、上七軒歌舞会による日本舞踊の奉納、京都連歌の会による「もみじ連歌会」の張行、露の五郎兵衛一門による「もみじ寄席」、立命館大学邦楽部による奉納演奏、神若会北野天神太鼓会による和太鼓奉納など、北野ならではの奉納行事が執り行われたほか、十一月二十二日から四日間には亘り開催された「厳選梅酒まつり in 京都」も重なり、北野境内は様々な文化行事が連日奉納披露された。

「史跡御土居もみじ苑」は、天正年間に太閤秀吉公が京の都を氾濫や外敵から守るために築いた土塁であり、秀吉公の遺構として今に伝えられ、現在は史跡に指定されている。かつては二・五キロに渡って巡らされた洛中の御土居も、時代の流れの中でその役目を終え、明治期までにはほぼ取り壊され、今で



神若会北野天神太鼓会奉納演奏



美しく照らし出されるもみじ苑参道





境内の大銀杏と地主社



幻想的な鶯橋と紙屋川

は京都市内にその姿はほとんど残されていない。幸い当宮の御土居は境内を貫くように築かれたため保存され現存している。約三百五十本ものもみじが苑内を彩るが、中でも天正十九年（一五九一）に秀吉公が御土居を築造する以前より自生していたと伝わり、幹が根元から三つに分かれている姿から「三叉の紅葉」と呼ばれ、かつて当宮神苑の中でも一際大きく、人々に親しまれてきた御神木も植わっている。

また日中の紅葉も美しいが、夜間にライトアップされたもみじも趣があり、高低のある御土居の特性を生かした紅葉の見方は他に類がなく、幻想的な御土居の姿に多くの入苑者が魅了されていた。

今年の「もみじ苑」入苑者を見てみると、インバウンドのみではなく国内からの参拝者も非常に多かったことがあげられる。オーバートリズムが問題となっている昨今、当宮においても、多言語による案内看板や外国語での案内ができる北野インフォメーションガイドを設置する等、参詣者と観光者が互いに共存できるよう様々な取り組みを行っている。こうした取り組みによるものか、今年は訪日観光者だけでなく、国内からの参拝者が大幅に増加傾向にあった。特に紅葉の時期には、京都の様々な場所を訪日観光客の姿が見られ、人が溢れかえる場所もあったが、当宮においては、苑内の順路を定める等、混雑が避けられる様な工夫を行った。こうした工夫が功を奏したのか、入苑者が多い土日でも人込みを気にすることなく紅葉狩りを楽しめ、入苑した訪日観光者からは「市街地にありながらゆったりと日本ならではの自然を堪能できた」という声も寄せられた。



茶店は一服する入苑者で賑わった



立命館大学邦楽部による尺八・箏などの奉納



篠笛玲月流奉納演奏



露の五郎兵衛一門「もみじ寄席」開演  
文道会館を笑いで包む



落語の露の五郎兵衛一門による恒例の「もみじ寄席」が十一月三十日、文道会館ホールで開かれ、会場を笑いの渦で包んだ。江戸時代、上方落語の祖といわれる初代露の五郎兵衛が、当宮境内で落語をしたという御神縁から一門が毎年

この時期に「もみじ寄席」を行っている。

この日は、陽照・紫・眞・都・吉次・新治の六人が、それぞれ巧妙な「枕」で笑いを誘いながら古典や新作で一席伺い、会場を笑いの渦で包んだ。『井戸の茶碗』といった長尺の古典もあり、落語ファンを堪能させた。

初代五郎兵衛碑前で碑前祭  
一門の益々の隆盛を祈願

「もみじ寄席」の開演に先立ち、出演の落語家らは、御本殿に昇殿参拝し、その後一の鳥居近くにある初代五郎兵衛碑前で斎行の碑前祭に参列、一門の益々の隆盛を祈った。



「もみじ苑」の公開初日  
上七軒の芸舞妓による日本舞踊奉納



史跡御土居「もみじ苑」の公開初日の十一月一日の夕、御土居内の特別舞台で上七軒の芸舞妓による日本舞踊の奉納が行われた。

ライトアップもこの日から始まっており、芸舞妓三人が、淡いラ

イトの光を浴びながら『もみじの橋』『重ね扇』『京の四季』の三曲をあでやかに舞い上げた。

今年は夏から秋にかけても炎暑が続き、もみじはやつと色づきが始まったばかり

だったが、この日本舞踊の奉納を毎年楽しみにしている参拝者

も多く、用意していた椅子席はすぐに埋まった。

芸舞妓の舞に拍手喝采を送った後、御土居内を散策する姿があちこちで見られた。



恒例の「もみじ連歌会」張行  
京都連歌の会



京都連歌の会は十一月十六日、紅梅殿で「もみじ連歌会」を張行し、「賦何船連歌」で詠まれた四十四句の連歌懐紙を奉納した。

「文道大祖風月本主」と崇められた御祭神の

菅公は、連歌の神としても篤く崇敬され、中世から江戸時代にかけては当宮に連歌会所も設けられるなどして、御神前に奉納する聖廟法楽の連歌会が頻繁に開かれてきた。

京都連歌の会は、こうした伝統を引き継ぎ、かつての連歌会所址である「連歌会所の井戸」横の紅梅殿で、春は「梅ヶ枝連歌会」、秋は「もみじ連歌会」の張行を恒例としている。

詠まれた連歌懐紙は、紅梅殿の前に次々張り出された。小春日和の好天とあつて、もみじ狩りの参拝者らが足を止めて懐紙に見入り、紅梅殿内の様子を興味深そうに見入る風景もあった。



# 連歌の心ことはじめ三

京都連歌の会 大村敦子



立冬を過ぎての会は冬紅葉の発句から。「太閤の御阜けふぞ冬紅葉」は、太閤秀吉の築いた御土居を「御阜」とやまと言葉に翻案し紅葉を詠んでいます。脇は菅公の詩文の業に心を寄せた句。清められた庭に吹く風は穏やかに小竹群を吹き過ぎ、どこからか暖れ暖れに聞こえる鈴虫の声。そこは懐かしい里で。里へと心逸る山越えの道中、月を宿した露を散らして急ぐ旅人は、草を踏み過ぎて進む。空に浮かぶ雲に、仲良く飛ぶ鳥の姿は見え隠れ。初折表から裏二句目までは、ゆつくりと景色が移ろい、気付けば人の気配が立ち現れてくるように詠み進めます。そして初折裏三句目から名残表十四句目までは、恋や述懐の句を通して人の世の心の世界が次々と展開します。恋しい人の夢はほととぎすのにわか声に破られ、涙がこぼれるばかり。この

思いはいつまでもくすぶり続けるのか、と自分では止めようのない恋に悩んでいるところ目に入るのは古寺の影。重い心の句が続いた後にはひと息つくような句も大事。また句の背景に古典や伝説を置くと連歌に厚みをもたらします。「瓊矛」の句は国生みの神話を踏まえ、付句はそれに応えた花の句を、恋心に始まった名残表は、つややかな髪から和泉の狐の連想も面白く、それをすかさず信田山と受け信田の狐の伝説を詠む。「ならぬものはならぬ」は「菅原伝授手習鑑」の忠義に転じる。時事もあります。海を渡るもののふの三人とは？答えは「山に谷ありささの根」にあり。こうして変化に富んだ句の数々を経て、名残裏は深刻にならないよう、最後の花に向けて場面を整えていきます。かすかな道であろうと、蟬の声に励まされ前を向く。激しい雨もいつかは止んで、野は霞立つ春となる。名残折の花は、当日が大安の佳き日であったことに因んで。そして挙句は菅公の母君をおまつりする伴氏社を詠み、めでたく満尾。

連歌は必ず前句に付けるものです。さらに法楽の連歌では常に神さまを心に留めておくことで、地図のない旅であつても連歌の思いは到着地へと向かってゆくのです。



## 北野天満宮 聖廟法楽

令和七年十一月十六日  
於 北野天満宮 紅梅殿  
宗匠 大村 敦子  
執筆 徳久 青檜

### 賦 何 船 連 歌

#### 初折表

太閤の御阜<sup>みづみ</sup>けふぞ冬紅葉

時雨降り添ふ文業<sup>ふみわざ</sup>の道

清庭<sup>きよは</sup>にもおだしき風は見え初めて

けはひかすかに小竹群<sup>しのむら</sup>の末

いづくにか鈴虫<sup>しるし</sup>の声かれぬらむ

水澄む朝のなつかしき里

しら露に月も散りける山越えて

草踏み過ぎぬ名も知らぬまま

#### 初折裏

よりあひてはや離れゆく雲なれど

並ぶる鳥の影な隠しそ

思ひ寝の夢を破りてほととぎす

せむかたもなく袖の濡るるか

いまだ消えぬ燐火に恋はあやふくも

雪にかげろふ峯の古寺

老いの身をわれだにいとふ朝つらし

さしあふぐ子に昔しのばゆ

ささなみの近江にさそへかもめどち

あてにおぼろの糸月の光

いつしかに來れる東風ぞ酒いぎや

清むも濁るも瓊矛<sup>あまのこ</sup>さす春

なりなれる色こそ花のはじめなれ

敦子

かおり

青檜

正純

まり絵

貞子

奈智子

純一

和行

青檜

かおり

まり絵

貞子

奈智子

正純

純一

和行

青檜

かおり

まり絵

貞子

奈智子

正純

純一

和行

青檜

かおり

まり絵

貞子

奈智子

正純

純一

和行

青檜

かおり

まり絵

貞子

奈智子

正純

純一

#### 名残表

波の音ただなつかしき恋心

青雲誘ふ髪<sup>かみ</sup>のさやけさ

和泉なる狐なりとも恨みじを

信田の山に吹くはこがらし

行きあへぬ峠越えよと誰が声か

ちちかもしれずははかもしれず

世にならぬものはならぬといましめぞ

鑑に清き松のいさをし

天満てる秋のにぎはひ目守りつつ

かかしの面も暮れはやり頃

望の月くまなくてらせ里の小田

霧去る方へ光導く

海渡るもののふ三人名も高く

山に谷ありささの根の伸ぶ

#### 名残裏

祝ぎ技を幾代伝へむ語り継ぎ

手に刺すからに衣涼しき

螢ゆく道ぞかそけき夕まぐれ

後ろ見はせじせみのもろ声

おもふさまはげしき雨も降りやみて

やどりのいづれば野にかすみ立つ

咲き満ちて花大きなる安らぎぞ

伴の社にともす春の燈

#### 句上

重十九一 坂上奈智子三

敦子四 西田正純四

和行四 岡子まり絵三

中村和行四 押川かおり四

河合貞子二 東川楠彦一

中 眺 丈一

純 平 三

代 一

綿 一

青檜

純一

木綿

正純

敦子

かおり

純一

和行

純平

奈智子

まり絵

貞子

青檜

純一

和行

純平

奈智子

まり絵

貞子

青檜

純一

和行

純平

奈智子

まり絵

貞子

青檜

純一

和行

純平

奈智子

まり絵

貞子

青檜

純一

和行

純平

奈智子

まり絵

貞子

青檜

純一





# 梅苑「花の庭」公開



しだれや八重、紅白様々な梅花に彩られる梅苑「花の庭」

来る令和九年（二〇二七）の式年大祭「菅公御神忌千二百二十五年半萬祭」の斎行に向け、当宮に纏わる様々な歴史や伝統を繙き、旧儀や伝統を復興するとともに、境内整備を含む記念事業を行ってき  
た。こうした一連の事業において、令和四年に再興されたのが、当  
宮南側に広がる梅苑「花の庭」である。

「雪月花の三庭苑」の一つとして有名なこの庭は、江戸時代、寺町  
二条の妙満寺（現在は左京区岩倉）の「雪の庭」、清水寺の「月の庭」、  
そして当宮の「花の庭」、それぞれが成就院（成就坊）という塔頭に  
造られた庭であり、かつて「京都随一の名勝」としてその名を馳せ  
たと伝えられている。

また当宮「花の庭」は、江戸時代の連歌師・松永貞徳が作庭した  
庭として伝わり、松永貞徳翁を顕彰するとともに、和歌・連歌の神  
として篤く崇敬される御祭神菅公の御神徳の更なる発揚に向けて、  
梅苑「花の庭」として令和の世に新たに蘇らせた。

作庭の松永貞徳翁は、日本の古典に精通し、歌人としてその道を  
極め、連歌を学んだのち、俳諧という新しい分野を開拓した人物。  
多くの文化的遺産を遺し、その代表作の一つが「雪月花の三庭苑」  
であった。

雪月花は、中国の「白居易」の漢詩「寄殷協律」の一節に詠われた「雪  
月花時最憶君」から採られた言葉であり、日本では萬葉集のなかで、  
大伴家持が雪月花の和歌を詠むなど、日本の美意識の基準となつて  
きた。「白居易」は日本文学にも大きな影響を与えたといわれ、平安  
時代、稀代の文化人であり我国における漢詩や和歌・連歌の大祖と  
讃えられた御祭神菅公も、白居易に影響を受けた一人であった。

江戸時代、先人に学んだ松永貞徳は、和歌連歌の神として菅公を  
敬仰し「雪月花 一度に見する 卯木かな」など、様々な俳諧や和歌



清水寺 月の庭



妙満寺 雪の庭



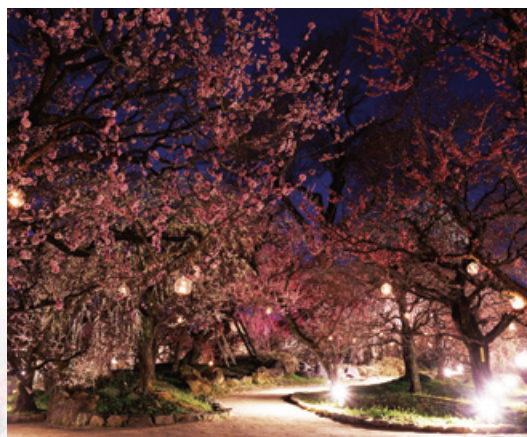


を遣し、自身が作庭した三庭苑には、この「雪月花」の名が冠された。今回の梅苑「花の庭」は、北野天満宮を舞台に蜷川実花 with E i M が手がける「KYOTO NIPPON FESTIVAL 2026 ―時をこえ、華ひらく庭―」を二〇二六年二月一日(日)〜五月二十四日(日)まで開催する。「KYOTO NIPPON FESTIVAL」は、二〇一六年に誕生し、日本の「美」と「文化」を京都から世界に発信してきたフェスティバルで、由緒ある北野天満宮を舞台に、毎年多彩な文化プログラムを展開してきた。二〇二六年に十周年を迎えるにあたり、アーティスト蜷川実花と大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーもつとめた宮田裕章をはじめ、各分野のスペシャリストが集うクリエイティブチーム E i M が参画。さらにダンスカンパニー DAZZLE とタッグを組み、北野天満宮で初めてとなるイマーシブ公演に挑む。

本プロジェクトでは、北野天満宮を象徴する梅苑や茶室を生かした、蜷川実花 with E i M によるアートインスタレーションと、ダンスカンパニー DAZZLE・蜷川実花・E i M が手がける初のイマーシブ公演の二つを楽しめる。これだけ長い歴史を持つ建物でのイマーシブ公演は日本初で、蜷川実花 with E i M による舞台美術と DAZZLE のパフォーマンスが、空間の歴史性と呼应しながら立体的に展開。本作では四百年前、北野天満宮で豊臣秀吉によって開かれた伝説の茶会、その「幻の二日目」が復活。

空間・作品・パフォーマンス、そして鑑賞者が交差することで生まれる唯一無二の作品世界は、その場に立ち会った人だけが記憶に留めることのできる、新しい没入感をもたらす観劇体験である。

また、期間中の北野天満宮では、梅が枯木から満開、そして新緑へと移ろう三つの季節を楽しむことができ、二季化が進むなど季節を感じづらくなっている日本、様々な顔を見せる自然の中のアートを体験することで、日本の季節の移ろいの美しさを改めて体感できる機会となる。



ろうそく明かりで梅の花が浮かび上がる幻想的な光景も見られる



組織培養された飛梅も毎年綺麗な花を咲かせる



整備された苑道でゆったりと梅見を楽しめる



## 子どもの感性溢れる673点を展示 西廻廊で夏休み恒例『奉納図画展』開く



芸術の神さま、北野の天神さまに図画の上達を願って奉納する夏休み恒例の奉納図画展が、八月二十二日から三十一日まで御本殿前の西廻廊で開かれ、幼児から中学校三年生までの出品された六百七十三点の全作品が展示され、参拝者の目を楽しました。

昭和二十七年から続いている夏休み恒例の図画展で、今年も夏の野

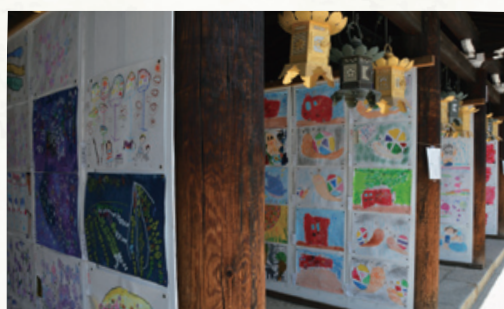
菜や果物、当宮の境内などを、水彩やクレヨンなどで描いた作品が並んだ。

審査は展示初日に画家の三輪純子、根本悟両先生と宮司によって行われ、天満宮賞など二百二十八点の入選作を選んだ

### 御本殿で入選者授賞式

入選者の授賞式は、展示最終日の八月三十一日午後、御本殿に主な入選者と保護者が参列して行われた。

まず奉告祭があり、斎主が祝詞を奏上し、子どもたちの健康と図画の益々の上達を祈願した。ついで入選者の代表が玉串を捧げ、参列者全員が学問の向上・図画上達を祈願した。神職がお祝いの言葉を述べ、「入選おめでとう」と、天満宮賞・京都新聞賞などを一人ずつ手渡した。



### 入選者氏名〔敬称略〕

【天満宮賞】宮崎一千花（正親こども園年少） 芦田絹衣（Bandi House年少）、沖野天音（月かげ保育園年中）、川上權（とうりん幼稚園年中）、ブルーノ俊哉（京都きらら幼稚園年長）、芦田美琴（みつば幼稚園年長）、門律希（京都教育大学附属京都小中学校一年）、山崎伊織（正親小学校二年）、正木佑芽（大將軍小学校三年）、松本結歩（下鴨小学校四年）、山口鈴乃（京都教育大学附属京都小中学校五年）、佐伯杏奈（下鴨小学校六年）

【京都新聞特別賞】中村明里（北野保育園年中）

【京都新聞賞】山本創宇（蓮美幼児学園唐崎キンダースクール年少）、正木いろは（京和幼稚園年少）、石田隼也（同志社幼稚園年中）、中川柚空（月かげ保育園年長）、白崎乃歌（京都きらら学園年長）、鈴鹿西奈（同志社小学校一年）、西島彩華（京都教育大学附属京都小中学校二年）、關光経（新町小学校五年）、北岡あおい（京都教育大学附属京都小中学校六年）

【上京子供会会長賞】小笠原楓（衣笠小学校三年）、遠藤悠人（京都教育大学附属京都小中学校四年）

【金賞】藤井向葵（北野保育園年少） 始め七十九人

【銀賞】内原旺佑（正親こども園年少） 始め百二十五人

### 審査員の講評

賞を選ぶ時のポイントは、描きたいと思う物をどれだけ真剣に観察して表現出来ているかだ。色彩も大きなポイントであり、同じモチーフの作品が並んでいても色感のいいものは評価が高くなる。独特な色合いで表現されているものは、その子の個性が出ており魅力を感じる。子どもの絵の審査は大変難しく、賞に選ばれなかったといっても僅差であり、気落ちすることなく描き続けてほしい。



## 一條天皇行幸始祭、厳かに齋行



一條天皇が当宮に初めて行幸されたことを寿ぐ祭典である一條天皇行幸始祭（中祭）を、十月二十一日午前十時から御本殿で厳かに齋行、宮司が祝詞を奏上し、皇室の弥栄と国家の安泰を御祭神に祈願した。

寛弘元年（一〇〇四）のこの日、一條天皇は初めて当宮へ行幸され、以降歴代天皇の当宮への行幸は二十数度に及んでいる。当宮への初行幸については、藤原道長の日記『御堂関白記』にも記載されており、当宮にとつては極めて重要な史実であった。

長年にわたり齋行されてきた行幸始祭であったが、戦後の混乱期に一時途絶え、初行幸から一〇一〇年に当たる平成二十五年、六十数年ぶりに再興された。

## 七五三詣で境内華やぐ

十月から十一月の終りにかけて七五三詣の参拝が増え、境内は子ども連れの家族で賑わい、華やいだ雰囲気包まれた。

七五三詣の最盛期は例年通り十月の終りごろからで、週末や祝祭日を中心に、親に手を引かれた子どもたちで大いに賑わった。子どもたちは羽織袴や振袖を身にまとい、ぎこちなく歩く姿がとても可愛らしく、

御本殿や三光門前に飾られた半萬燈祭の提灯台前などで、写真を撮る姿が見られ、家族だけでなく他の参拝者の向けるスマートフォンのカメラにポーズをとる子どももいた。



昇殿参拝してご祈禱を受けた子どもたちには、授与品の千歳飴や知恵の御守り、祝篋などを授かり、手にしながらうれしそうに境内を歩き回る子どもたちの姿に、付き添いの親たちも笑顔が弾けていた。

## 新嘗祭を齋行、五穀豊穣に感謝



今年収穫した新穀などを御神前に供え五穀豊穣に感謝する大祭新嘗祭を、十一月二十三日午前十時から御本殿に神社役員・氏子崇敬者ら多数参列の下、厳かに齋行した。

新嘗祭は、天皇が天神地祇に新穀を供えて御自らも食し、五穀豊穣に感謝される最も重要な祭儀で、全国の神社でもこの日に齋行されている。

御神前には、今年収穫

された稲穂や米、醸造されたばかりの白酒と清酒、数々の海や山の幸が供えられ、宮司が祝詞を奏上、巫女が「豊栄舞」を奉奏し、今年の収穫に感謝し皇室の弥栄と国家の隆盛、氏子崇敬者の家内安全を祈った。

## 神恩に感謝する赤柏祭 特殊神饌を供え齋行

赤くなつた柏の葉で御飯を包んだ当宮独特の特殊神饌を御神前に供え、日々の神恩に感謝し、国民の無病息災を祈願する赤柏祭を、十一月三十日午前十時から御本殿で齋行した。

柏の葉は、大古より神への供物の下に敷くために使われており、神事用として神聖に扱われてきた植物。天皇の行う大嘗祭の神饌を盛り付ける容器も、竹と柏の葉で作られている。

当宮では六月十日に青い柏の葉に御飯を包んで供える青柏祭と、この日の赤柏祭を季節の変わり目の神事として古くから齋行している。『国語大辞典』（小学館発行）にも、青柏祭の紹介として「京都北野神社の祭り」として取り上げられており、非常に珍しい祭典とされる。



柏の葉は、境内に自生する柏の木から採取して使うが、安永七年（一七七八）の記録にも、お供え用として柏の葉を採ったことが書かれ、柏の木の奉納や植樹の記録もある。

この日の祭典では、これも古くからの習わしによつて、胡桃くるみの特殊神饌も併せて供えられた。



去年の今夜清涼に待す：：捧持して毎日余香を拝す

## 名詩「重陽後一日」の菅公偲び余香祭斎行

### 古式ゆかしく献詠歌披講式も



配流先の大宰府で名詩として名高い『重陽後一日』を詠まれた菅公を偲ぶ余香祭を、十月二十九日午後二時から御本殿で斎行した。

昌泰三年（九〇〇）九月、右大臣だった菅公は、清涼殿での重陽の宴に召され、見事な詩を詠まれ、醍醐天皇から褒美の御衣を賜った。が、その翌年、左大臣藤原時平の讒言によって大宰府に配流された。一年前の栄華を追想され、詠まれたのが「去年の今夜清涼に待す 秋思の詩篇独り腸を断つ 恩賜の御衣今茲に在り捧持して毎日余香を拝す」の名詩であった。

この『重陽後一日』の詩には、当時の菅公の思いが溢れており、余香祭は、菅公を偲んで毎年、斎行している。

祭典後、この日の恒例行事、献詠歌披講式が行われ、全国から寄せられた献詠（今年の兼題は「紙」）の中から歌人で公益財団法人有斐斎弘道館館長の濱崎加奈子氏が選んだ八首を車座になった向陽会（冷泉為弘会長）の会員六人が、綾小路流と呼ばれる独特の節回しで古式ゆかしく披講した。

## 令和七年余香祭献詠歌披講選歌『紙』

とりどりの 葉もうるはしき紙屋川  
大宮人の 御文なるべし

選者 濱崎 加奈子

うす紙に 命掬へばはくはくと  
地蔵めぐりの 金魚の朱し

若狭 静一

なき人の 文漉き直し墨染めの  
紙に返し の 歌を書かまし

服部 満千子

古への 社の紙垂に吹く風も  
夕日にまくれ 秋を伝へむ

塩小路 光胤

しりがたき 人のころを思ひわび  
紙縫のみくじに 縁たづぬる

松村 栄子

風吹かば ふとしのぼるるひとことの  
水茎清き 紙の白さを

田口 稔恵

風わたり 落ち葉綾なす紙屋川  
いざ漉き織らむ もみじの錦

北野天満宮権宮司 神原 孝至

年毎の 葉売り待ちたむろして  
紙風船に 夕暮れ忘れ

北野天満宮宮司 橘 重十九

水茎の 零留めることのはは  
小菊うつろひ かおる御紙に

向陽会会長 冷泉 為弘

しきしまの 道のみさかえ 大神に  
しろ紙垂垂して 袖手向けて

向陽会 橋本 正明

移ろへど 世にふみの香は 絶えざりき  
したたむ紙の 色も変はらず

向陽会 田中 明仁

秋の色に 漉き返すらむ紙屋川  
御土居のみどり幣の錦と

向陽会 杉田 潤

ことのはを 紙にしろしてたむければ  
幾千代経ても 色やかはらじ

向陽会 安井 正明

### 令和八年 献詠兼題

▼一月 初瀬	▼二月 佐保山	▼三月 三輪山
▼四月 飛鳥	▼五月 香具山	▼六月 八瀬
▼七月 嵯峨野	▼八月 武蔵	▼九月 宮城野
▼御旅所 衣笠山	▼十月 高雄	▼余香祭 清涼殿
▼十一月 石山寺	▼十二月 唐崎	





# 新春の祭典・行事

元旦より

## 初詣

当宮の初詣は、例年受験合格祈願を始め家内安全や厄除開運・除災招福などの御祈禱を受けられる方々が非常に多く、御本殿は御祈禱の昇殿参拝者でいっぱいになる。令和五年には旧社務所を改装し「風月殿」とし、その広間を御祈禱をお待ちの方々の控室とさせていただきます、暖房の効いた部屋でお待ちいただけるようになった。



また御神前には、新年にあたり御祭神菅公の御加護を願い熱心に手を合わせる参詣者で境内は溢れかえる。特に、新年の御札<sup>おふだ</sup>や御守り、招福の天神矢や干支の一刀彫り、梅ノ枝「思いのまま」など、お正月ならではの縁起物を求められる参詣者が多く訪れ、正月期間には終日賑わう。

一月一日

## 歳旦祭

新年が明けて最初の神事である歳旦祭が、午前七時から御本殿において斎行される。

祭典では、年頭に当たり皇室及び国家の安泰隆昌と世界の平和、氏子崇敬者を始めとする国民の安全と弥栄を祈願する。



一月二日

## 筆始祭並びに「天満書」奉納

午前九時から、御本殿大前に菅公御遺愛の硯などの御神宝を供え、書道の神としても篤い信仰を集める菅公の御神徳を偲び、この日から神前書き初め「天満書」を始めることを御神前に奉告する。

「天満書」は、絵馬所で四日まで行われ、子どもたちが書道の上達を願って力強く書き初めをし、作品を奉納する恒例の行事。

これに家庭で書いてこられた作品を加え、例年約四千点の書き初め作品が奉納され、十六日午後一時から二十五日午後三時まで西廻廊で展示される。

また、展示初日に書家の先生らの審査によって優秀作品が選ばれ、後日表彰式が行われる。





一月二日まで

## 献華展



華道家元池坊京都支部による新春を彩るいけばなの奉納。

毎年、元日と二日に神楽殿で披露され、立花・生花・自由花の形でいけられた正月らしい美しいいけばなが、初詣参詣者の目を楽しませている。

一月三日

## 新春奉納狂言



毎年恒例の猿楽会と茂山忠三郎社中による新春奉納狂言が、午後一時から神楽殿で行われる。

一月七日

## 若菜祭



五節句の一つ、正月七日「人日の節句」に、春の七草の若菜で粥を炊き、御神前に供える若菜祭を斎行する。  
祭典では、新年の節句を祝うとともに、氏子崇敬者を始め、国民の無病息災を祈る。

二月三日

## 節分祭と追儼式



午前十時から御本殿で節分祭を斎行し、神職が皇室をはじめ国民の今年一年間の除災招福を祈った後、午後一時から神楽殿で、茂山千五郎社中による伝統の「北野追儼狂言」が奉納される。また上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納も行われる。そして最後に、狂言師と芸舞妓らによって、神楽殿から威勢よく福豆が撒かれる。

「北野天満宮そろばんはじき初め奉賛会」に集う小中学生約四百人が、御本殿参拝の後、午前十時から絵馬所にて、そろばんの上達を願って「はじき初め」を奉納する。

長さ五・

メートル、

四百桁もある

ジャンボ

そろばんが

毎年話題となる。



## 一月二十五日 初天神



一月二十五日は、一年で最初の御縁日であり、特に「初天神」として名高く、京阪神はもとより全国津々浦々から多くの参詣者が訪れ親しまれている。

表参道を始め境内周辺は、骨董や古物商・飲食品の屋台など多くの露店が立ち並び、一際賑わう。  
この頃は、すでに受験シーズンに入っており、御本殿や牛社の前は、受験合格・学業成就を祈る若者たちが行列をなす光景が見られる。



当宮は、京の都における「乾（北西）の隅」の守り神として創建されて以来、災難除・厄除の社としても篤い信仰があり、節分には「四方詣り」と称して、当宮を始めとする四社寺を参拝し、無病息災を祈る習慣が根付いており、多くの参拝者で終日賑わう。





菅公の祥月命日となる二月二十五日午前十時から御本殿にて梅花祭を厳肅に斎行し、御祭神の御遺徳を偲び、御神慮をお慰め申し上げる。御神前には、梅の花を用いた「梅花の御供」と「紙立」という、西之京神人の子孫である七保会が調製した二種の特殊神饌が奉饗される。また、かつて貞明皇后御参拝の古例により、宮内庁京都事務所長



が皇后陛下の御代拝として参列・拝礼される慣わしとなっている。境内では、美しく咲き誇る梅花の下、上七軒の女将や芸舞妓らの奉仕により「梅花祭野点大茶湯」が催され、公開中の梅苑の馥郁たる花の香を愛でる人々や、縁日を楽しむ見物客も相交わり、また近年は外国人観光客も非常に多く、境内はお茶と梅を愛でる多くの参拝者で賑わう。



当宮崇敬者団体、梅風講社の祭典である梅風祭を、午後三時半から御本殿で斎行する。祭典では、梅風講社の更なる隆盛と講員一同の無病息災を祈願し、御垂髪に巫女装束を身にまとった「八乙女」が、舞を優雅に奉納する。

三月二十二日  
梅風祭



# 迎春準備調いました

## 事始め 大福梅の授与始まる

事始めの十二月十三日、授与所では、元旦の祝膳に欠かせない縁起物として親しまれている大福梅の授与が始まった。

大福梅は、元旦に白湯や初茶の中に入れて頂くことで邪気を祓い今年一年の健康を祈る、梅との縁の深い当宮ならではの縁起もの。

平安時代中期の天曆五年（九五二）に疫病が大流行し、時の村上天皇も病に罹られたが、このお茶を服されて平癒されたとの故事にちなんでいる。

境内にある約千五百本の梅の木から採った梅の実を塩漬け・天日干しにして調製、これを巫女が裏白を添えて奉書紙に包んで

授与しており「毎年、

元旦に大福梅を入れたお茶を飲み、天神さまの御利益を頂くのが習わし」という参拝者が初日から授与所に並んだ。

また、楼門の午の大絵馬を小型に調製した干支絵馬を新年の縁起ものとして参拝者に授与しており、授与所は一足早く正月ムードとなっている。



## 楼門に「午」の大絵馬お目見え 「馬にあやかり飛躍の年に」と作者



来年の干支「午」馬を描いた大絵馬が十二月五日夕、楼門に掲げられ、早くも新春のムードを振りまいた。

絵馬は、無垢のヒノキ材が使われ、幅三・三メートル、高さ二・二五メートル、重さ約百二十キロという大きなもの。五十人ほどの参拝者が見上げる中、足場に乗った宮大工らが取り付けた。

絵馬には、走る白馬が描かれおり、原画の制作は画家の三輪純子さん。父の日本画家晃久氏から引き継いで今年で五年目。「神馬に多い白馬。力強く大地をかける馬にあやかっって大きく飛躍する、豊かな年になってほしいとの願いを込めて描きました」と、自作の大絵馬を見上げながら話された。

## 初詣参拝者への応接学ぶ 正月巫女奉仕者の研修会

初詣参拝者への応接を学ぶ正月巫女奉仕者の研修会が十一月二十九日、午前と午後の二回にわたって行われ、約百四十人の見習い巫女の学生たちが、応接の仕方や授与品の種類などを学んだ。

本研修会はこの時期恒例の行事で、白衣・緋袴に着替えた学生たちは、列を整え、まずは御本殿に昇殿参拝して、新春初詣の応接が無事務まるように御神前で

神妙な面持ちで祈った。その後、神職の案内で境内を回り各所の説明を受けた上で、文道会館において、初詣参拝者への言葉遣いや、御守り・御札など授与品の種類や初穂料などについて担当者より研修を受けた。

また、昨今のインバウンド（訪日客）の増加に伴い、昨年から取り入れている外国人参拝者への対応の仕方についても、当宮のインフォメーションガイドによって説明が行われた。





# 参拝者や観光客、地域住民に対応 「北野天満宮梅苑南観光トイレ」 開所式及び篤志者表彰式開催



当宮境内である梅苑南（表参道二の鳥居手前）に、京都市が新たに「観光トイレ」を開設し、十二月十日に京都市の松井孝治市長、上京区原真弓区長、宮司はじめ、建設に関わった関係者、地域代表ら、報道各社が出席し、賑々しく開所式が執り行われた。

現在、京都市では民間施設のトイレを市民や観光客に開放し、宿泊税を活用してトイレの改修や維持管理費用の一部を助成する「観光トイレ制度」を推進している。今回は、昨今増加する参拝者や観光客、またそれに伴う近隣住民への対応として、当宮が全面協力し、新たな観光トイレを新設することとなった。この観光トイレの開設により、市内の観光トイレは五十七ヶ所となり、中でも今回の観光トイレは、機能面・デザイン面含め非常に優れた要素を取り入れた施設となっている。

また、梅苑南観光トイレ開設に伴い、これまで使用していた今出川御前西公衆トイレの供用を停止した。本来は京都市が撤去を行う予定であったが、当宮が撤去工事を寄付し、京都市の進める地域界隈の環境整備にも協力する形となった。

開所式当日は、宮司はじめ京都市松井孝治市長、京都市会寺田一博議員、横山克久環境政策局長、田中伸弥建設局長、原真弓上京区長ほか、地域界隈を代表し、富家裕久翔鸞学区住民福祉協議会会長、建設に関わった株式会社ミラノ工



務店小崎学代表取締役社長らが参列し、まずは、観光トイレの清祓、次に出席者が紹介され、テープカットを実施。次に今回の開設に伴う一連の協力にあたり、京都市より寄付受納に係る篤志者表彰式が行われ、松井京都市長より、当宮宮司に対し表彰状の授与がなされた。松井京都市長は「京都市のために大変素晴らしいトイレをご寄付いただいた」と感謝の意を述べる挨拶をされ、開所式並びに表彰式を終えた。

## 京都市産地「北山杉」を使用した ユニバーサルデザイン 増える観光客見据え機能充実

新設された梅苑南観光トイレは、機能も充実。十分な便器数、男女別の多機能トイレ等の施設規模に加え、ユニバーサルデザイン対応の設備等が極めて充実しており、市民や参拝者、観光客をはじめ、車椅子利用者やオストメイト、小さなお子様連れの方にとっても利便性、快適性が高い施設となっている。電動車椅子を利用の方が一人でも移動できるようにトイレ内に十分なスペースを設けるほか、手すりの色彩も利用者の目に入りやすいよう工夫を凝らし、内装には、北山丸太などが使用され、トイレサインの男性用案内は古代紫、女性用案内は紅梅色を採り入れた意匠を凝らすなど、周辺環境と調和させる仕様となっている。

なお、本観光トイレは、多くの観光客が訪れる場所にある民間トイレ所有者の協力を得て、市民や観光客の皆様向けに開設されたトイレとして、京都市における一定の要件を定めた観光トイレとして認定し、所有者に維持管理及び施設整備に係る費用の一部を助成する市の観光トイレ制度が活用されている。

### 【観光トイレの概要】

名称等：北野天満宮梅苑南観光トイレ

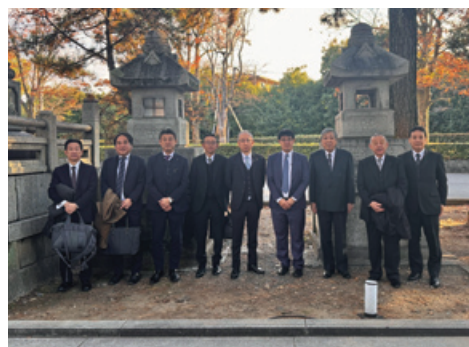
（京都市上京区馬喰町）

開設日：令和七年十二月十日

開放時間：午前六時三十分～午後十一時三十分



## 紙・文芸の信仰深き北野天満宮 かつて御所の紙漉き場であった紙屋川



昨秋十一月二十九日に京都紙商・北野天満宮灯籠保存会（会長山田芳弘氏）が恒例の正式参拝に来宮し、紙業の繁栄と灯籠保存会の発展を祈願した。

### 当宮御祭神

菅公は、学問のみならず連歌や和歌を始めとする文芸の信仰、北野文庫に代表される書肆の信仰が厚く、紙にかかわる信仰が多くあることから、古来紙関係者からの崇敬が篤く、明治三十五年の菅公御神忌一千大萬燈祭では、和紙発祥の地を顕彰すべく、「京都紙商」の名で表参道に燈籠を奉納（その後昭和二十六年に現在の石燈籠二基を奉納）され、今日に至るまで崇敬されている。

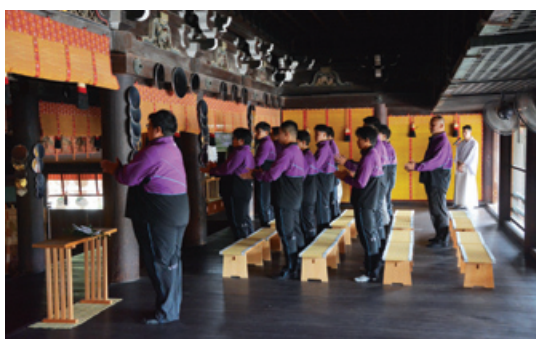
また、境内西側・史跡御土居内を流れる紙屋川は、平安時代官用の製紙所である紙屋院が置かれ、紙屋院で奉製された和紙は、御所で使用する紙として献上されていたなど、北野の地は紙の聖地でもあった。

当日は正式参拝に先立ち、先祖が奉納された石灯籠の前で恒例の記念撮影を行い、その後御本殿にて正式参拝。参拝後は、京都紙商の歴史や変遷などの史料をもとに意見交換がなされた。

## 京都府相撲連盟が国体必勝祈願 相撲の祖・野見宿禰公にも参拝

九月二十八日から十月八日まで滋賀県で開催された第七十九回国民スポーツ大会に出場する京都府相撲連盟（平塚靖規会長）の選手や監督・役員ら十三名が九月二十日、相撲の神でもある当宮にて国体必勝祈願に参列、勝利への祈りを捧げた。

御祭神菅公は、相撲の祖と仰がれ、『日本書紀』には垂仁天皇の御前試合にて、当時最強の力士と豪語する当麻蹴速を打ち破る様子が語られている。そういった御神縁により、当宮においては御祭神の慰霊と御神徳の景仰を祈願し、二十五年毎に行われる式年大祭萬燈祭には歴代横綱による土俵入りの奉納が行われてきており、相撲道を志す人々から大変篤い崇敬を受けている。



祝詞奏上の後、選手代表が玉串を捧げ、国体の必勝を祈願した後、野見宿禰公をお祀りする末社野見宿禰社にて同じく参拝、玉串拝礼を行い、国体での必勝を願った。

## 「第二回ぺたほめお絵かきコンテスト」表彰式 絵馬所に子どもたちの夢を描いた応募作品を展示



一般社団法人「日本ぺたほめアカデミー協会」（藤田敦子代表理事）の「第二回ぺたほめお絵かきコンテスト」の入選者表彰式が十月十九日、文道会館で行われた。

「ぺたほめ」とは、子どもが描いた絵や作文・学習プリントなどを家の壁などに「ぺた」と張って「ほめ」、子どもの自己肯定感を高める教育法で、「ほめて育てることの大切さ」を伝える活動を行っている。

同協会独特の子育て法。「お絵描きコンテスト」も、その趣旨に沿ったもので、幼児から小学校六年生以下の子どもを対象に「ぼく・わたしのゆめ」をテーマに描いた作品を募集。全国から寄せられた四百四十点の中から京都市長賞や北野天満宮賞、ぺたほめ大賞など四十一点の入選作を選び、この日の表彰式となった。

藤田代表理事がわが子を育てた経験を交えながら挨拶した後、吉田良比呂京都市副市長ら来賓が次々祝辞を述べ、入選した子どもに一人ずつ賞状が手渡された。

応募作品は絵馬所に展示されたが、いずれも子どもたちの夢が込められた作品ばかり。ベッドに横たわる患者の面倒を見る華やかな衣装の看護師を描いた作品には「アイドル看護師のいる病院をつくり、アイドル看護師になりたい」とのコメントが添えられていた。

表彰式の後、入選者とその家族らは御本殿に昇殿参拝し、学業の向上などを祈願した。



## 企業の若手後継者ら 当宮で「アトツギ縁日」開く



京都を中心とする企業の若手後継者らによる「アトツギ縁日」が十一月三日、当宮表参道横の広場で開かれ、食べ物や小物製作のブースなどが並び、参拝者の来客で賑わった。

「アトツギ縁日」は、中小企業の若手後継者の交流の場として昨年十一月に発足し、この日の当宮での縁日が第五回。和菓子店や漬物店、小間物店、楽器店、金属加工業、うなぎ店などなど多種多様な三十二社の若手後継者がブースを設けて、販売や製作のワークショップを行った。

午前中は、時折小雨のぱらつく生憎の空模様だったが、午後からは快晴となり、多数の来客があり、混み合っただけの順番待ちのブースまであった。松井孝治京都市長も訪れ、熱心にブースをのぞき込み、未来の京都の企業を支える「アトツギ」たちにエールを送る場面もあった。実行委員会のメンバーは「縁日の本場である北野天満宮での縁日。来客も多く上々でした」と、話していた。

## 講道館柔道の源流 「天神真楊流柔術」含む 古武術四流の演武奉納

紅葉深まる境内紅梅殿において十一月二十二日、天神真楊流柔術の奉納演武が行われた。

当宮は武道の神としての信仰が篤い神社である。中でも柔道・柔術とは深い御縁と信仰がある。

江戸時代後期、天神真楊流の流祖である紀州藩士、磯又右衛門柳閑斎源正足は若くして楊心流を学び、さらに真之神道流柔術の門に入り、奥義を極めた柔術の達人であった。真の修行に心を砕き、ついに奥妙を極めた磯又右衛門は、天神信仰ことのほか篤く、いよいよ北野天満宮へ参籠祈願し、ついに楊心流と真之神道流を合一統合した新たな柔術「天神真楊流」を創始したのである。

時は流れ、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎は天神真楊流三代の磯正智やその弟子たちに柔術を学び、それが講道館柔道となつて今日に受け継がれている。



この日は天神真楊流を含む、浅山一伝流体術・甲源一刀流剣術・正木流万力鎖術の古武術四流の演武奉納が行われ、眼前で繰り広げられる妙技の数々に参拝者の視線が注がれた。

## 「ものづくりTenmangumalシェ」 百のブースが並び、賑わう



「ものづくりTenmangumalシェ」が十一月二日、表参道横の広場で開かれた。各地で手作り市を開いている「ものづくりCrossroad」(山中陽太代表)の主催で、当宮での開催は十二回目となる。

木工品や革製品、アクセサリなどを扱う店など約百のブースが並び、地元上京区からの出店もあった。アコースティックギターの演奏など音楽ライブイベントもあり、催しの賑わいを盛り上げた。

## 新たに四人を子ども観光大使に認定 当宮で「京都子ども観光大使」の催し

「あそぼう！まなぼう！京都子ども観光大使」国宝でもってなし—in北野天満宮」の催しが、十一月十六日(一回目)と十二月十四日(二回目)に行われ、新たに四人の小学生に観光大使の認定書が渡された。

京都の良さを歴史や文化に親しむ活動を通じて知り、観光客らに発信できる子どもを育てようとの試み。当宮では、平成三十年二月を皮切りに何回も開催されている。

一回目は文道会館で百人一首遊びなどをした後、神職の案内で境内を回り、御本殿のこと、なぜ牛の像が多いのか、御土居は何のために造られたのか、などなど当宮について学んだ。二回目は、ご朱印帳づくりをした後、神職の話を聞き、「伝えよう！天神さんのええところ」という趣旨のもと、観光客への案内方法などを学んだ。

両日とも多くの子どもが参加したが、「子ども観光大使」は、両日も参加した小学生に限られており、この日、条件にあった四人が観光大使の認定書を受けた。





## 正式参拝された皆様（敬称略）（七月～十二月）

七月	二十五日（金）	天神太鼓会
八月	三日（日）	天神社
八月	五日（火）	平濱八幡宮 宮司青木義親
八月	六日（水）	ホテルオークラ京都「季節の旅」
八月	六日（水）	中野信子
八月	八日（金）	権正階検定講習会直階受講生神社実習
八月	十四日（木）	北野商店街
八月	十五日（火）	湯島天満宮
八月	十九日（火）	KNTひまわり会
八月	二十五日（月）	天神太鼓会
八月	二十六日（火）	中村稜
八月	二十九日（金）	神社庁役員会
九月	五日（金）	ヤサカタタクシー研修会
九月	六日（土）	京都RC同期会
九月	七日（日）	岡村天満宮
九月	十日（水）	北野祭保存会・神輿会
九月	十三日（土）	中野信子
九月	二十日（金）	パークハイアット
九月	二十四日（水）	豊田晋他
九月	二十九日（月）	裏千家チャリティー茶会
九月	三十日（火）	神輿飾り
十月	一日（水）	株式会社エムシーエス商学習センター
十月	一日（水）	大阪神社連合会
十月	一日（水）	奉行会・北野祭保存会・神若会
十月	二日（木）	株式会社エムシーエス生涯学習センター
十月	三日（金）	立命館大学ボランティアガイド
十月	四日（土）	奉行会・北野祭保存会・神若会
十月	五日（日）	神輿片付け
十月	十日（金）	伊豆神社
十月	十二日（日）	山本山社長他
十月	十七日（金）	自動車評論家西川淳
十月	十八日（土）	立命館大学
十月	十九日（日）	松坂屋静岡岡店特別参拝ツアー
十月	十九日（日）	一般社団法人日本たばこアカデミー協会
十月	二十五日（土）	平濱八幡宮総代会
十月	二十九日（水）	天神太鼓会
十一月	三日（月）	ワックジャパンツアー
十一月	七日（金）	アトツギ縁日
十一月	七日（金）	立命館大学西園寺塾
十一月	十五日（土）	神宮研究所
十一月	十六日（日）	甲冑デザインナー砂田早紀
十一月	十六日（日）	篠笛玲月流
十一月	十六日（日）	立命館大学邦楽部
十一月	十六日（日）	京都子ども観光大使
十一月	十九日（水）	京都連歌の会
十一月	二十三日（日）	上七軒七道
十一月	二十五日（火）	津田天満神社氏子厄年会
十一月	二十五日（火）	天神太鼓会
十一月	二十五日（火）	綱敷天神社・北野会
十一月	二十五日（火）	オックスフォード大学
十一月	二十五日（火）	アシムモレアン博物館パトロンツアー

十一月	二十七日（木）	天神太鼓会
十一月	二十九日（土）	越前松平家第二十代当主松平宗紀氏
十一月	三十日（日）	京都紙商燈籠保存会
十二月	一日（月）	巫女奉仕者研修会
十二月	六日（土）	露の五郎兵衛一門会
十二月	七日（日）	橋本寿史他
十二月	十一日（木）	白拍子研究所
十二月	十七日（水）	上京の婚活
十二月	二十一日（日）	公益財団法人日本修学旅行協会
十二月	二十二日（月）	全国コンシェルジュの会
十二月	二十五日（木）	百人一首京都府大会
十二月	二十五日（木）	神社庁役員会
十二月	二十五日（木）	天神太鼓会

## 挙式された皆様（七月～九月）

九月	二十日	古賀 優太・麻梨恵
十月	十八日	岩倉 悠介・風花
十月	二十六日	高尾 基史・博愛
十一月	二十四日	明永 征大・ニコル
十一月	三日	大河 岳弘・未祐
十二月	四日	小間澤 陸・雅子
十二月	四日	ご夫婦
十二月	四日	ご夫婦
十二月	四日	ご夫婦

新郎新婦様、御両家の皆様のお末永いご多幸を心祈念申し上げます。

## 祭事暦（1月1日～3月31日）

[1月]	1日 午前7時	歳旦祭（中祭式）
	2日 午前9時	筆始祭 天満書（午前10時） 神前書初め（4日まで） 家庭書初め（5日まで受付）
	3日 午前9時	元始祭 奉納狂言（午後1時）茂山忠三郎社中
	5日 午前10時	新春そろばんはじき始め
	7日 午前9時半	若菜祭
	9日 午前10時	摂社白太夫社例祭
	14日 午前10時	末社伴氏社例祭
	15日 午前10時	月次祭 御粥祭 成人祭
	17日 午後4時半	神社役員新年奉饌
	25日 午前9時	月次祭
	午後2時	書初め「天満書」授賞式
	午後4時	夕神饌 初天神
[2月]	1日 午前10時	月首祭・斎祭
	午前10時半	末社稲荷社初午祭
	3日 午前10時	節分祭 北野追儺式（午後1時） 追儺狂言 茂山千五郎社中 日本舞踊 上七軒歌舞会奉納 豆撒き
	4日 午前10時	霞祭 摂社地主社霞祭
	11日 午前9時半	紀元祭
	15日 午前10時	月次祭
	23日 午前9時半	天長祭
	24日	参籠
	午後4時	梅花祭前夕饌
	25日 午前10時	梅花祭（中祭式）
	午後4時半	夕神饌 野点茶会（午前10時）上七軒歌舞会奉仕
[3月]	1日 午前10時	春祭（大祭式）
	12日 午前10時	摂社老松社例祭
		摂社福部社例祭
	20日 午前10時	春季皇霊祭遙拝式 摂社末社春季祭
	22日 午後3時半	梅風祭
	25日 午前9時	月次祭
	午後4時半	夕神饌
	27日 午前10時	摂社宰相殿社例祭

## 月釜献茶（1月1日～3月31日）

[1月]	1日	献茶祭保存会	休会	（明月舎）
	15日	献茶祭保存会	馬場宗鶴	（明月舎）
	15日	松向軒保存会	休会	（松向軒）
	18日	梅交會	合同茶会	（松向軒）
	25日	紫芳会	紫芳会	（松向軒）
[2月]	1日	献茶祭保存会	鈴木宗博	（明月舎）
	8日	梅交會	晴風会	（松向軒）
	15日	献茶祭保存会	奈良宗久	（明月舎）
	15日	松向軒保存会	赤松社中	（松向軒）
	22日	紫芳会	中村瑛治	（松向軒）
[3月]	1日	献茶祭保存会	田中宗眞	（明月舎）
	8日	梅交會	慶重会	（松向軒）
	15日	献茶祭保存会	村岸宗紫	（明月舎）
	15日	松向軒保存会	秦宗周	（松向軒）
	22日	紫芳会	藤井宗路	（松向軒）



## 献詠 濱崎加奈子選

管公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

## 七月「宵」

夏祭宵山立ちて夜もすがら  
御雛子満ちて黄金の都  
京都市 小山 博子

待つ宵の心も知らずいづ方ぞ  
つれなき君が淡きたそがれ  
京都市 服部満千子

静けさの宵にはぐれば現し世の  
スマホが告げるとつ国の乱  
京都市 若狭 静一

宵山の提灯の下君ありく  
そよ風の中人混みを抜け  
京都市 塩小路光胤

宵々山大路小路に影照らし  
髪上ぐる君に心さざめく  
東京都 白石 雅彦

【評】古代、夜は宵、夜中、暁に分けて捉えた。そのうちの最初の時間帯で、日が暮れて暗くなった頃をさす。「人しれぬわが通ひ路の関守は宵々ごとくにうちも寝なむ」（在原業平）

## 八月「住吉」

八月に書紀をひもとく住吉の  
いくさのことも遠くなりけり  
京都市 若狭 静一

住吉の橋のたもとのわすれ草  
おもかげさへもとほき君かな  
京都市 服部満千子

住吉の松の下吹く風ならば  
うらみ忘るる草を知るかな  
京都市 塩小路光胤

住吉の神に祈りて和歌詠めば  
言の葉まとい風に乗る声  
東京都 白石 雅彦

ことの葉の道しるべせよ住の江の  
神さびて吹く浜の松風  
京都市 松村 栄子

【評】摂津国の歌枕。「すみのえ」とも訓まれた。海辺の地として、忘れ草、松、浪などが景物として詠まれてきた。「道知らば摘みにも行かむ住の江の岸に生ふてふ恋忘れ草」（紀貫之）

## 九月「鳥」

ふけゆけどかへる山なき里鳥  
枝の泊りに羽をやすめて  
京都市 服部満千子

啼かぬ日もあるか鳥はアンテナで  
ちっと無言の黒を貫く  
京都市 若狭 静一

からすなくあけの空にも紅の  
くもたなひきて未を幸祝ふ  
京都市 塩小路光胤

濡鳥夜の闇より鮮やかに  
汝が黒髪に月影映ゆる  
東京都 白石 雅彦

み熊野に何をか祈る白拍子  
烏帽子を立てて八咫鳥に並む  
京都市 松村 栄子

【評】古くは明け方に鳴くとされ「朝鳥早くな鳴きそ我が背子が朝明の姿みれば悲しも」（万葉集）などがある一方で、月夜に鳴く声が詠まれることも。憎まれる一方で神の使者とされることも。

## 十月「にほひ」

誇らしき化粧の澆の薄紙も  
にはひとりどり京を思ひて  
京都市 小山 博子

萩こぼる白壁浴ひに三色の  
秋のにはひをとどめおくかな  
京都市 若狭 静一

ゆき過ぎし君が墨の香にほふらむ  
うしろ姿に文の技あり  
京都市 服部満千子

散らしつつ匂ひ残せし菊の叢  
知らず見やりし行く秋の庭  
京都市 塩小路光胤

秋風のにはひ運ぶや稲穂揺れ  
実りの喜び村里に満つ  
東京都 白石 雅彦

秋の日の古き社に慈童舞ひ  
枯れぬ菊花のにはひにぞ酔ふ  
京都市 朝比奈栄子

【評】ものが照り映えてのが照り映えて輝いて見えることをいう。視覚的な要素がつよい言葉だが、嗅覚も含む。「色も香も昔の濃さににほへども植えけむ人の影ぞ恋しき」（貫之）

## 十一月「嵐山」

鵜飼舟に鮎の母泣く嵐山  
哀しく憐く火はゆれにけり  
京都市 小山 博子

月欠けの橋を渡らば静けさの  
戻る錦の嵐山なり  
京都市 若狭 静一

嵐山めぐるしぐれに色映えて  
錦たゆたふ大堰川波  
京都市 服部満千子

しもふらぬ色葉の山に御名ほと  
風よ吹かすな嵐山かな  
京都市 塩小路光胤

嵐山落ち葉の舟に照り映えて  
わたる風にも匂ひ立つなり  
東京都 白石 雅彦

のどかなる川面に錦の秋うかみ  
嵐山とはなのみなるかは  
東京都 朝比奈栄子

【評】山城国の歌枕。古来紅葉の名所として知られ「吹き払ふ紅葉の上の霧暗れて峰たしかなる嵐山かな」（定家）など。嵐山が桜の名所になったのは、鎌倉時代に吉野の桜が移植されてから。

## 十二月「祈」

すぎし日に掛けし真白き木綿四手の  
色変はるまで幸を祈らむ  
京都市 服部満千子

ひとり坐す炉辺の灯りに影揺らし  
夜空に響く鐘の音遠し  
東京都 白石 雅彦

祈らばや生きとしいけるものの身に  
安らけき夜の約されし世を  
京都市 朝比奈栄子

【評】斎（い）と祝詞などの「のり」で「いのり」。神への祈りのなかでも多く詠まれてきたのは恋の歌。「憂かりける人を初瀬の山おろいしよはげしかれとは祈らぬものを」（俊賴）など。



## 全世界興収一千億「鬼滅の刃」 映画公開特別企画「鬼滅の漢字」

応募数約二万三千票から選ばれた  
一位の漢字を当宮で発表



日本映画史上初、全世界興行収入一千億突破「鬼滅の刃」の映画、『劇場版「鬼滅の刃」無限城編」第一章 猗窩座再来』公開を記念し、「日本漢字能力検定」とコラボして開催された「鬼滅の刃」を表す漢字の投票企画「鬼滅の漢字」。一位に選ばれた「滅」の発表が七月三十日（水）、当宮にて書家川尾朋子氏の揮毫により発表された。北野天満宮は、平安時代に都の厄を祓い鎮める神として菅原道真公をお祀りするため、創建された神社で、同じく平安時代に、当宮上空で渡邊綱の手により鬼を切ったと伝わる太刀「鬼切丸」が奉納されている。こうした信仰と、「鬼滅の刃」の作品のテーマに高い親和性があることから、今回、当宮が発表の場となった。当日は、特別車両「無限城号」、みに隊士も登場。大勢のファンが来宮し、猛暑の中歓声を上げていた。



## 御旅所献詠「松虫」

チンチロリン松虫歌の秋舞台  
声を合はせし仲間はいずこ  
京都市 小山 博子

松虫の集ひたるかな鴨川に  
合唱曲の夜が始まる  
京都市 若狭 静一

秋の野の松虫なきて雄呼はむ  
待ちてあへぬはわれも哀しき  
京都市 塩小路光胤

うつりゆくときの間の松虫の  
声の昔の調きくかな  
京都市 服部満千子

草の露松虫の声しみじみと  
思ひ出づるは君が面影  
東京都 白石 雅彦

月欠けて朧ろに赤き影うかむ  
地にはことなく松虫の声  
京都市 朝比奈崇子

### 【評】

平安時代には、松虫と鈴虫は逆ということが知られている。「来ぬ人を秋のけしきや更けぬらむ恨みによわる松虫の声」（寂蓮）など、「待つ」にかけられることが多い。

### 令和八年兼題

1月	初瀬
2月	佐保山
3月	三輪山
4月	飛鳥
5月	香具山
6月	八瀬
7月	嵯峨野
8月	武蔵
9月	宮城野
御旅所	衣笠山
10月	高雄
余香祭	清涼殿
11月	石山寺
12月	唐崎

## 天神さん

## 思い出写真館

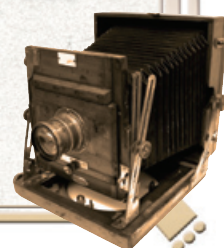


昭和三年春齋行の御神忌千二十五年半萬燈祭においては、たくさん皇族が献詠されているが、参拝された方もあった。この写真「四月三十日午後、久邇宮多嘉王、並びに同妃殿下、若宮御同行にて当社にお成りあり」の記録が遺されており、この写真は、それを捉えたものだ。多嘉王の御家族は、社務所で休憩後、御本殿に昇殿参拝、玉串拝礼された後、中庭において奉奏中の太々神楽を終わるまでじっくりご覧になったという。それだけではなく宮司の案内で宝物殿の宝物を御覧になり、さらに五千燈舎に入られ、手づから燈明を上げられたという。

さらに「瑞饋御興、飾り牛や御羽車などを御覧になった後、御土居に入られ、紙屋川の新緑を賞せられ、明月舎に休憩中、献茶祭保存会員の奉るお茶を召され、ご機嫌麗しく御退出遊ばさる」と、綴っている。

記録を裏付けるように宮司の案内で明月舎に入られる多嘉王の写真もある。

多嘉王は、久邇宮朝彦親王の第五王子で、京都に住まれ、伊勢神宮の祭主を務められた。





## 奉納釣燈籠と秀吉の生年

京都大学名誉教授

藤井 讓治

天満宮 歴史の一齣

当宮には豊臣秀吉・秀頼が奉納した銅製の釣り燈籠一対が本殿大床に飾られている。

この燈籠は六角形で、大きさは八一・五センチ、笠の径五五・〇センチの大型の釣り燈籠である。

燈籠火袋の四面には豊臣家の家紋、五七の桐と一二弁菊が交互に透かされている。また、火袋の扉銘側には次のような透かし彫りの銘がある。左のものには、

御歳 丙申為御

祈祷也 左

慶長二年

西三月朔日

北野神前

燈籠二之内

右のもう一つには

御歳 癸巳為御

祈祷也 右

慶長二年

西三月朔日

北野神前

燈籠二之内

とある。両者とも慶長二年（一五九七）年三月朔日に「祈祷」のために奉納されたものである。前者の「御歳 丙申」は秀吉の生まれた天文五年

（一五九五）の干支、後者の「御歳 癸巳」は秀頼誕生の文禄二年（一五九三）の干支であることと、前者の「丙申」は秀吉の生年とされてきた天文五年の干支と対応することから、生前の慶長二年には秀吉は自らの生年を天文五年としていたことになる。

ところが近年、秀吉誕生の年を天文五年ではなく天文六年とする有力な見解が提示されている。

天正一八年一二月吉日付の豊臣家の奉行の一人伊藤秀盛が美濃石通白（いとしろ）杉本坊に宛てた「白山御立願状之事」という願文（「桜井文書」）に「閏白様 酉之御年 御年五十四歳」とあること、また比較的信の置ける「当代記」という記録に「秀吉、慶長三戊戌八月十八日被薨了、年六十二」とあることから、秀吉の生年を天文六年とするようになった。

天文六年説の方が妥当性が高いと思われるが、秀吉が北野天満宮に奉納した燈籠の銘に記された事実を無視することもできない。生年を天文五年とする『公卿補任』の記載とあわせると、実際の生年は天文六年、公称の生年は天文五年としたのではないだろうか。





# 午年の縁起物

一年の家内安全、無病息災、  
長寿幸福を祈念する縁起物です。

## 北野天満宮 悪疫除自護



一刀彫  
初穂料 2,000円



干支絵馬  
初穂料 1,000円

悪疫除札  
初穂料 800円



天神矢  
初穂料 1,200円

午年干支根付  
初穂料 1,000円



## 新年に向けたご案内

当宮では十二月一日から、来年の干支「午」にまつわる絵馬や一刀彫などを、十二月十三日の事始めの日から、大福梅をはじめとした縁起物の授与が始まります。

新たに新年を迎えるのに欠かせない縁起物を飾り、清々しい気持ちでぜひ新年をお迎えください。

## 新年縁起物「大福梅」

天神様の御神徳あふれる北野天満宮境内で採れた梅を使い奉製された「大福梅」は元日の朝、祝膳と合わせて初茶として飲めば、一年間健康に過ごすことが出来るとして、古くから多くの人々に信仰されてきた。

その起源は村上天皇の天暦五年（九五二）に疫病が流行した際、「天皇御脳にかかり給いしが、この茶を服し給えば御脳たち所に平癒す。これより王服と称して毎年元旦にこの茶を服し給い、萬民これを倣い

年中の疫病

邪気を除

き長寿幸

福を得

るなり」

という故

事による。



大福梅  
初穂料 700円



天神信仰の主な歴史（注）歴史事項 北野天満宮事項 伝説事項  
菅公薨去後、およそ百年かけて醸成され千年受け継がれる天神信仰

承和十二年	八四五	菅原道真公（菅公）御誕生（父是善母伴氏）	父是善との親子の契り
斉衡二年	八五五	初めて詩「月夜に梅花を見る」を作る	（菅公十一歳）
貞観元年	八五九	菅公元服 文章生を目指し勉学	菅公石清水八幡宮参拝
貞観四年	八六二	文章生の試験に合格	（菅公十八歳）
貞観八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の『頭揚大戒論』の序文を書く	
貞観九年	八六七	文章得業生となる	
貞観十二年	八七〇	方略試（当時最高の国家試験）に合格	（菅公二十三歳）
		この間少内記（詔勅の起草係）式部少輔など任ぜらる（菅家廊下を継承）	（菅公二十六歳）
仁和二年	八八六	讃岐守に任ぜられる	（菅公四十二歳）
仁和四年	八八八	〈阿衡問題〉につき藤原基経に意見書を送る	（菅公四十四歳）
		これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く	
寛平四年	八九二	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手	
寛平五年	八九三	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官	
寛平六年	八九四	遣唐大使に任ぜらる	
寛平七年	八九五	渤海客使を接待し詩を交換 中納言従三位	（菅公五十歳）
寛平九年	八九七	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる	
昌泰二年	八九九	菅公右大臣に任ず 位人臣を極める	（菅公五十五歳）
昌泰三年	九〇〇	『菅家文章』『菅相公集』『菅家集』を献上す（三善清行、菅公に辞職を勧告）	
延喜元年	九〇一	一月二十五日大宰権帥に左遷される 大宰府南館で謫居の日々（菅公五十七歳）	
延喜三年	九〇三	詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る 天拝山で「天満大自在天神」となる	
延喜五年	九〇五	二月二十五日 配所において薨す	（菅公五十九歳）
延喜六年	九〇六	味酒安行 大宰府の御墓所に祠堂を建てる（現在の太宰府天満宮）	
延長元年	九二二	菅公を元の右大臣・正二位に叙し 左遷の宣命を破棄す	
天曆元年	九四二	多治比文子 比良宮神官の子太郎丸らに神託（朝日寺の僧最鎮）	
	九四七	村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す	
		村上天皇御鳳輦御寄進	
天曆三年	九四九	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る（現在の大阪天満宮）	
天徳三年	九五九	右大臣藤原師輔 北野の神殿を増築し神宝を献ずる	
寛和二年	九八六	慶滋保胤「文道の祖詩境之主」の願文を草す	
永延元年	九八七	一條天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」の神号を賜る	
		北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される（江戸末期迄）	
		一條天皇御鳳輦御寄進	
		左大臣・正一位 次いで太政大臣を追贈される	
正暦四年	九九三	一條天皇初めて臣下を祀る北野社に行幸 以後歴代天皇の行幸に与る	
寛弘元年	一〇〇四	北野社が国家の大事を祈る二十二社に臣下で異例の加列	
永保元年	一〇八一	大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される	
康和三年	一一〇一	『北野天神縁起』建久本成る	
建久五年	一一九四	『北野天神縁起』承久本成る	
承久元年	一二一九	『北野天神縁起』承久本成る	

応永八年	一四〇一	北野経王堂成る
応仁元年	一四六七	室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える
天正十五年	一五八七	「北野大茶湯」を豊大閣・千利休居士ら催す
慶長八年	一六〇三	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り（歌舞伎踊り）を公演（歌舞伎発祥）
慶長十二年	一六〇七	豊臣秀頼公 北野神社殿を造営する（慶長の大造営）
江戸年間	後期	後西天皇御宸筆勅額「天満宮」御寄進（三光門掲額）
元治元年	一八六四	北野をはじめ太宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立
慶応四年	一八六八	勅命により北野祭臨時祭再興
明治四年	一八七一	神仏判然令（神仏分離）により 天台宗比叡山延暦寺のもと社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる
明治三十五年	一九〇二	北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる
昭和二十七年	一九五二	太宰府天満宮 国幣小社となる（のち官幣中社）
平成十四年	二〇〇二	菅公千年大萬燈祭を斎行する
令和二年	二〇二〇	菅公千百年大萬燈祭を斎行する
令和九年	二〇二七	例祭（かつての北野祭）斎行に伴い 比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興 菅公千二百五十年半萬燈祭を斎行予定

### 今昔マップ

◆北野社創建（平安時代）至現在  
◆現在の京都

■平安京全域  
■平安宮 大内裏

注① 国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。  
注② 平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。  
注③ 八幡さま、稻荷さまを始め多くの神仏は国都平安京（元の国都平城京）の近畿より全国に伝播。





## 紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、  
紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、  
母君は菅公の前途を祝し、  
『久方の月の桂も折るばかり  
家の風をも吹かせてしがな』

の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



## 新年御祝 大福梅と縁起物の授与

◆頒布開始 十二月十三日（土）午前八時半より



◆初穂料  
大福梅 七〇〇円  
祝箸 二〇〇円  
屠蘇 五〇〇円  
守護繩 五〇〇円  
縁起物詰合せ 三〇〇〇円  
（但し、無くなり次第頒布終了）  
元旦の祝膳に使われる  
「大福梅」と新年縁起物を  
今年も事始めの十二月十三  
日から授与。

## 梅の枝「おもいのまま」

### 元旦から授与

◆頒布開始 令和八年元旦より  
◆初穂料 一本一〇〇〇円  
（但し、無くなり次第頒布終了）

千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の初天神で参拝者に授与していた経緯より、約六十年ぶりに授与を復活させた招福の梅の枝「おもいのまま」。「おもいのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で御神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

### 御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。  
境内特別ライトアップ！

### 定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）  
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。



右記QRコードを携帯  
電話やスマートフォンで  
読み込むと北野天満宮  
の最新情報にアクセスできます。上記の  
各SNSでもご案内しております。

### ●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分  
第二京阪道路鴨川東インターより約20分  
JR京都駅より市バス50系統  
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統  
JR円町駅より203系統  
地下鉄今出川駅より市バス51・203系統  
京阪出町柳駅より市バス203系統

### ●参拝時間

■7時～17時  
但し、毎月25日（御縁日）は6時30分から20時  
※青もみじ苑・もみじ苑・梅苑「花の庭」のライト  
アップ期間や正月等は夜間も開門しています。  
最新情報はホームページ等のお知らせ記事をご覧  
ください。

■文道会館・授与所 受付時間 9時～16時30分

京阪三条駅より市バス10系統  
阪急大宮駅より市バス55系統  
阪急西院駅より市バス203系統  
京福電車白梅町駅より徒歩5分  
いずれも北野天満宮前下車すぐ

### ●御祈禱

■受付時間 9時～16時  
■受付場所 御本殿東側授与所

### ●駐車場

毎月25日は、御縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。